令和元年　第４回沼田町議会定例会　会議録

令和　元年１２月１９日（木）
午前１０時００分　　開　会

１．出席議員

議　長	９番	小　峯　　聡	議員	１番	鵜　野　範　之	議員
	２番	畑　地　　誉	議員	３番	久　保　元　宏	議員
	４番	高　田　　勲	議員	５番	篠　原　　暁	議員
	６番	伊　藤　　淳	議員	７番	長　野　時　敏	議員
	８番	上　野　敏　夫	議員	１０番	大　沼　恒　雄	議員

２．欠席議員　　なし

３．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

町　　長	横　山　　茂　君	教育長	吉　田　憲　司　君
監査委員	金　子　幸　保　君	農業委員会長	辻　　則　行　君

４．町長の委任を受けて出席した説明員

副町長	菅　原　秀　史　君	総務財政課長	前　田　昌　清　君
産業創出課長	中　野　栄　治　君	農業推進課長	瀧　本　周　三　君
住民生活課長	嶋　田　英　樹　君	建設課長	村　中　博　隆　君
保健福祉課長	黒　田　美　和　君	和風園園長	安　念　昌　典　君
旭寿園園長	森　田　秀　幸　君		

５．教育委員会委員長の委任を受けて出席した説明員

教育課長　　三　浦　　剛　君

６．職務のため、会議に出席した者の職氏名

事務局長　　浅　野　信　行　君　　書　　記　　沼　本　次　登　君

７．付議案件は次のとおり

（議件番号）	（件　　名）
	会議録署名議員の指名
	会期の決定
	議長の諸般報告
	決算特別委員会決算審査報告（認定第１号）
	決算特別委員会決算審査報告（認定第２号）
	町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告
	一般質問

開　会　　１０時００分

（開　会　宣　言）

○議長（小峯聡議長）只今の出席議員数は１０人です。定足数に達していますので、本日を以って招集されました令和元年第４回沼田町議会定例会を開会します。これより本日の会議を開きます。本日の議事日程はお手元に配布のとおりであります。

（会議録署名議員の指名）

○議長（小峯聡議長）日程第１、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第１２５条の規定により、４番、高田議員、５番、篠原議員を指名いたします。

（会期の決定）

○議長（小峯聡議長）日程第２、会期の決定を議題といたします。会期につきましては、議会運営委員会で審議されておりますので、議会運営委員長から報告を願います。久保委員長。

（議会運営委員会報告　久保委員長登壇）

○委員長（久保元宏議員）おはようございます。令和元年第４回沼田町議会定例会の会期につきまして、議会運営委員会の審議結果を報告申しあげます。去る１２月１２日午後３時より議会運営委員と議長出席のもとに、議会運営委員会を開催いたしました。議会事務局より今定例会の提出議案等の概要について説明を受けるとともに、議長からの諮問事項を受けたところであります。これによりますと、今定例会に提出される案件は、諸般報告２件、決算審査報告２件、行政報告２件、一般質問、町長に対して８人１２件、教育長に対して１人２件、更に一般議案につきましては、条例の制定２件、条例改正３件、令和元年度補正予算８件、又、議長に提出されました陳情１件につきまして上程するものとして意見の一致を見たところでございます。あります。以上、付議案件全般について審議しました結果、今定例会の会期は、本日１９日から２０日までの２日間とすることで意見の一致をみております。以上申し上げまして、議会運営委員会の報告と致します。

○議長（小峯聡議長）委員長の報告が終わりました。お諮りいたします。本定例会の会期は委員長の報告のとおり本日から２０日までの２日間にいたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（小峯聡議長）ご異議なしと認めます。よって、会期は本日から２０日まで

の２日間に決しました。

（諸　般　報　告）

○議長（小峯聡議長）日程第３、議長の諸般報告については、前定例会以降の議会の動静、例月出納検査結果報告書を提出いたしましたのでご覧願います。

（決算特別委員会決算審査報告（認定第１号））

○議長（小峯聡議長）日程第４、決算特別委員会決算審査報告。認定第１号を議題といたします。委員長の報告を求めます。鵜野委員長。

（鵜野範之委員長登壇）

○委員長（鵜野範之委員長）委員会の決算審査報告。令和元年第３回沼田町議会定例会において付託された案件について審査の結果を次のとおり会議規則第７７条の規定により報告する。

（以下、決算審査報告書を朗読）

○議長（小峯聡議長）委員長の報告が終わりました。本決算に対する委員長の報告は意見を付し、認定とするものです。お諮りいたします。本決算は、委員長報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（小峯聡議長）ご異議なしと認めます。よって、本決算は委員長報告のとおり認定することに決しました。

（決算特別委員会　決算審査報告（認定第２号））

○議長（小峯聡議長）日程第５、決算特別委員会、決算審査報告、認定第２号を議題と致します。委員長の報告を求めます。鵜野委員長。

（鵜野範之委員長　登壇）

○委員長（鵜野範之委員長）委員会の決算審査報告。令和元年第３回沼田町議会定例会において付託された案件について審査の結果を次のとおり会議規則第７７条の規定により報告する。

（以下、決算審査報告書を朗読）

○議長（小峯聡議長）委員長の報告が終わりました。本決算に対する委員長の報告は意見を付し、認定するものです。お諮りいたします。本決算は、委員長報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（小峯聡議長）ご異議なしと認めます。よって、本決算は委員長報告のとお

り認定することに決しました。

（町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告）

○議長（小峯聡議長）日程第６、町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告を議題と致します。始めに町長。

（横山町長　登壇）

○町長（横山茂町長）本日ここに令和元年第４回定例会を招集したところ全議員の参加を頂き、開催できます事に心から御礼を申し上げ、只今より行政報告を述べさせて頂きます。

（以下、町政執行方針を朗読）

○議長（小峯聡議長）次に教育長。

（吉田教育長　登壇）

○教育長（吉田憲司教育長）続きまして、教育行政報告を行います。

（以下、教育行政執行方針を朗読）

○議長（小峯聡議長）以上で、町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告を終わります。ここで暫時休憩と致します。１０時５０分より、全員協議会を開きますので、議員の皆様は議員控え室にお集まり下さい。なお、再開は午後１時と致します。

１０時４０分　休憩

１３時００分　再開

（一　般　質　問）

○議長（小峯聡議長）それでは午後再開しますが、その前に御出席の傍聴者の方々に申し上げます。今回の一般質問では、試験的にスクリーンの使用をいたします。若干時間の経過、それから皆さんにご迷惑をかける点があろうかと思いますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。また、後ほど皆さんの御意見も、傍聴者の声などでお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは再開いたします。日程第７、一般質問を行います。町長に対して一般質問を行ないます。通告順に順次発言を許します。議席番号２番、畑地議員。高齢者の見守り対策について質問して下さい。

○２番（畑地誉議員）２番、畑地です。今日は、高齢者の見守りについてということで、町長の考えをお伺いしたいと思います。

師走を控え、外はすっかり白く雪国モードになってきました。町民の皆さんにおいては本格的な降雪ということで、除雪等で体を動かす機会が増える。そういった反面、家から外出をしなくなると言いますか、そういう控える高齢者が増えてくる

時期でもございます。雪が降り、外出が少なくなるという事は、周りも同じように、隣の方とコミュニケーションをとることが少なくなる。そういった事に繋がります。特に私の住んでいる農村部においては、農作業で外に行く機会がめっきり減りまして、田んぼの水を見に行く夏の時期とは違いまして、毎日のように外に出ていた時とは、近所の高齢者の方にですね、会ったり、あいさつをしたり、時には立ち話などをしながら様子をうかがう事が出来たわけなんですけども、冬期間についてはやはりなかなか様子が分からない。そういった状況になります。私は今日特別な思いを持って、本日の一般質問をさせて頂きたいと思っております。

それというのもですね、今年２月に大変残念な落雪事故が発生し、同じ町内会の同級生の母親が亡くなるという痛ましい事件がありました。この事については、ご冥福をお祈りするばかりなんですけれども、例え予知できない事故だとしても私の中には様々な教訓が残りました。実は同じような時刻だったんですけれども、私が隣町に車庫を借りてまして、そこに車を入れていたんですけども、隣の家の落雪によって車庫が全壊したという事が丁度同じ時期にありました。同じ時期というか、同時刻だと思います。そこは、人命にはあまり関わらない場所だったので、当事者の方と、相手方と今後の事を話して、その場は家に帰ったわけなんですけども、これは周りにも注意喚起しなきゃなという思いでいた。その次の日にですね、そういった不幸な事故を聞いたという事がありました。

後日お聞きしますと、連絡が取れなかった事を心配した遠方に住む身内の方がですね、ちょっと様子を見に来てくれないかという事で、消防の出動そして雪山の異変を発見したことから、そういった事故の発見ということになったというふうに記憶しております。また、発生後はですね、町の広報車或いは消防関係パトロールも含めてですね、巡回していたという事も記憶にしております。

想定外、これ非常に去年災害があった日本ですから、非常によく聞いた言葉ではありますけれども、特に雨や風の被害、去年多くありました。しかしながらですね、平時において町民が犠牲になる状況を防ぐには、多くの声掛け、そしてコミュニケーションがあってこそで、それが不足がちになると、高齢者あるいは独居の方については、冬期間非常に声掛けを強化する時期になるのではないのかなというふうにも考えております。私も含め地域社会、町内会等の共助、そういったものも図ると共に行政がどの様に見守り体制を考えていくのか、その点について３点質問させて頂きたいというふうに思っております。

一つには、沼田町の高齢者世帯における介護の実態、特にひとり暮らしの高齢者への支援、そして見守りサポートを行政としてどのように分析し、また対策を講じているのか。また、社会福祉協議会やボランティア団体などが現在行っている事業があればどのようなものがあり、行政との関わり方でどのように連携しているのか、

まず伺いたいと思います。

二つ目ですけれども、高齢者の生活支援サービスの位置づけであります「配食サービス」についてです。単純に食事をデリバリーするだけでなく、食事の食べ残しや、全く手を付けていない。或いは、家の周りに異変が無いかというような事を、いち早く気付くきっかけとなることから、これは全国的にも拡がりを見せているような状況にあるとされています。地域の高齢者のために見守り・安否確認も含めた配食サービスを拡充していただくような、関係各部署とも連携しながら検討を進めていってはどうかというふうに考えております。高齢者世帯、特に独居の世帯に対し幅広く声掛けをする機会を増やして、見守る態勢をどのように構築していくか、更には行政が主体となって実施した場合には、どのような問題があるのか、ここでその理由があれば教えて頂きたいなというふうに思っております。

最後三つ目なんですけれども、見守りに対しては訪問型、或いはセンサーによるもの、オート電話、オートメール、或いはカメラによる監視、宅配型、大きく分けて私は五つ、そういったサービスが実用化されているものがあるんじゃないかなというふうに考えております。全国的には民間業者の商品になるかもしれませんけども、インターネットや無線を介してですね、安否確認に繋がるサービスを高齢者世帯に導入しているような事例も聞いております。端的に言えば下水道、或いは家の中での動いた時のセンサーの検知、或いはポットですね、ポットを押すとメールが行くというような様々な商品が実用化されているようです。沼田町として、安否確認対策に繋がるような事業を検討される考えはあるのか、そこの部分についても最後お聞きしたいと思っておりますので、３点よろしくお願いいたします。

○議長（小峯聡議長）はい、町長。

○町長（横山茂町長）今ほど議員の方からもありましたが、今年の冬にこのように事故に遭われましてですね、お亡くなりになられました方に対しまして心から御冥福をお祈り申し上げますと共に、今後このような事故が無い事を切に願いたいというふうに私の立場からも言葉を発しさせて頂きたいと思います。

今ほど、高齢者の見守り対策についてという事でご質問がございましたので、その事につきまして、それぞれ３点に絞って御回答をさせて頂きたいというふうに思いますが、まず前段で町の高齢者ですね実数について、在宅での高齢者数につきましては、今年１，１３５人の方々がおられると、その内、独居での高齢者数は１７１名という状況です。高齢者人口につきましては、予測では今後緩やかに減少し、在宅介護サービスの充実を図っても独居高齢者は微増という予測となっているところでありますが、近年この５年間の推移については、ほぼ横ばいの状況であるところです。

高齢者の介護の実態でありますが、在宅での介護サービスを受けてる方につきま

しては、在宅の高齢者、要介護３以上という事で１１名の方が利用されているところです。サービスのその利用状況の詳細ですが、訪問介護については１１名の方。それから、通所介護、いわゆるデイサービスにつきましては９月末で４０名の方。それから、生きがいデイサービス、これについては１０名の方が利用をしているところであります。今後の在宅サービスにおける中で、特に課題とされる点についてはですね、やはりボランティア団体の育成あるいは、かかわり方、それから今後においては人材確保や、センター機能の充実等が課題であろうというふうに捉えているところであります。

その課題に対する点の中で、やはり担い手の一部を確保する上で町としては、平成２６年度から、高齢者におけるボランティアポイント制度というものを実施をしているところであります。ボランティアポイント付与という事で、和風園或いは旭寿園でのお手伝いですね、或いはのぞみ会でのサロンの活動の支援ですとか、或いは配食サービスの配食などの支援。それとデイサービスセンターでは、麻雀の相手などして頂いている事例がございますが、高齢者世帯や一人暮らしの高齢者への支援、それから見守りサポートについては、別に平成２２年度からですね、高齢者等の見守りサポート事業、「はあとふる沼田」というものも、地域の皆様の見守りネットワークという事で構築をして、住民の方々にもご協力を頂いて実施をしているところであります。「はあとふる沼田」につきましては、高齢者が明るく元気に安心して地域で生活できるよう、町内会或いは各種団体が連携して、支え合いや見守り、助け合い運動、活動を迅速に行えるようにですね、支援を必要とする高齢者の方々の地域での台帳を整備して情報共有を行っているところであります。

役場或いは、民生委員それから社会福祉協議会、自治振興協議会、福祉委員、老人クラブ連合等で組織をする、はあとふる支援会議というものを設立しておりましてですね、町内の関係機関或いは商店・町内会などの地域見守りの支援によってですね、この状況を地域包括支援センターとの連携体制を構築した中で、在宅高齢者の生活状況或いは、現状の把握を支援しているところであります。

現在この制度には、１２９名の高齢者が登録を頂いておりまして、毎年１月に、行政区長さん或いは民生委員さん、福祉委員さんに集まって頂いて、台帳の地図の更新作業ですとか、そういう説明会を実施しているところであります。

これまで地域の方々にはですね、新聞或いは郵便物がたまっている。そして何日か見かけないですとかね。屋根雪が落ちそうで危険だと、そういう気になることがあった時に、この保健福祉課或いは社会福祉協議会の方に連絡を頂いて対応している状況であります。この点をまず、ご報告させて頂きたいというふうに思います。

それから配食サービス、給食サービスにつきましては、現在社会福祉協議会の方で事業を担って頂いているところであります。町内の飲食店のお弁当ですね、登録

を頂いている利用者の方々に週３回、ボランティアの方々に協力を頂いて声掛け或いは安否確認も合わせて実施をして頂いているところであります。

費用につきましては、１食３００円の利用者負担となっておりますが、それ以外の負担につきましては、費用につきましては共同募金からの寄付金を原資に活用しているところで、現在７人の方が利用を頂いているところであります。

配食サービスにつきましては、訪問介護などの在宅介護を主体的に行って頂いている社会福祉協議会が実施することが連携がとれているというふうに私自身も思っているところでありまして、今後利用者が増える状況となればですね、或いは利用者の増加を図るために、食事の内容等配食のサービスの充実を図っていくことについて、社会福祉協議会の財源だけでは、なかなか難しい部分もあろうという点が課題の一つであろうというふうに思ってます。

ご質問にあるように、行政主導で実施してはどうだろうかという点については、サービス提供については、実際に社会福祉協議会、いわゆる在宅介護を主体的に行って頂いている社会福祉協議会が実施を頂くことが一番理想であろうというふうに思いますし、これからの地域づくりという自助、共助、公助という視点からすると直営ではなくて、やはり福祉サービスの一貫として社会福祉協議会が担って頂くことが理想でないかなというふうに思っているところであります。

それから３点目のご質問でございますが、ひとり暮らしの高齢者に対してのサービス、現状の中では日常生活の不安解消と人命の安全を確保するために、緊急通報システムという物を、高齢者世帯に設置をしているところでございまして、現在利用者については、２５世帯が利用して頂いているところであります。しかし、今後はですね、高齢者の高齢化時代が到来することが予測されており、人生１００年時代というふうに言われておりますので、より安心して生活を送っていただくためにですね、ＩＣＴやＩＯＴ技術の導入も視野に入れて、高齢者の見守りとそれから高齢者ご本人の安心感を兼ね備えた精度が高く、安価なシステムを見極めてですね、現在今年度ですね、奈良県立医科大学と調査研究事業を実施しているところでございますので、それをベースにしながらですね、システム提供企業と十分検討をした上で、対策を考えてまいりたいという事を報告させて頂きます。

○議長（小峯聡議長）はい、畑地議員。

○２番（畑地誉議員）只今言われていた課題等については、私も若干だぶる部分もございますけれども、３点目については多分検討されているというようなお話しをされていたので、この部分につきましては省かさせて頂きますけれども、２つ目の社会福祉協議会との連携ですか、ここの部分についてちょっと追加で質問をさせて頂きたいんですが、ちょっと事例といいますか、実例を出した方が早いかなというふうに思いますので私も資料を用意してきたんですけども、日本家政学会という所

がありまして、そこの情報誌をちょっと入手しまして、１９６０年代頃に増え始めた一人暮らしの高齢者対策の一つとして、周辺住民ボランティアが食べ物を持参する訪問活動が配食サービスの始まりというふうに位置づけられているそうです。そのあと、１９９２年に国は生活支援型食事サービスに対して補助制度を開始するというような形をとって、配食サービスについては一定の広がりを見せてたんですけども、ご存知のように２０００年から介護保険制度が制定されまして、配食サービスについては、食の自立支援事業として位置付けられ国庫補助の対象外となったということで、私も経過をそのように認識しているところでありますけれども、結局各自治体の任意事業の一つということで、それぞれいろんな福祉サービスの位置づけとちょっと棲み分けもあるのかもしれませんけれども、広がりはあるような傾向ではあるが、よその町の事例を見てるとどうも、やはり民間業者といいますか、ボランティア団体も含めた、そういった事業とのコラボレーションでやっているというのが殆どの実態ではないかなというふうに私も認識はしております。

そこでなんですけれども、ちょっと他の行政の事例をちょっと見ていくとですね、どこの町とは申しませんけれども、これ隣町なんですけれども、月曜日から金曜日まで週５日間、夕食又は昼食を配達していると、まあ１日１食というベースはあるんですけれども、１０月１日からは若干消費税も上がったんで、１食５２３円というような事で、配食サービスをされている。いずれも条件としては、６５歳以上というのが多くみられますし、又一人暮らしであるというような事が条件かなというふうに考えてございます。また、他の町なんですけど埼玉県の例なんですけども、これは一人暮らしで５００円というような形で、ちょっと高いなという感じは受けますけれども、よく見てみると５００円位から下は３００円位かなという形でちょっと把握はしております。３００円の地域でもですね、静岡県のある町ではですね、ちょっとこう私も凄いなと思ったんですけども、こういう解りやすい冊子も作ってですね、いわゆる老老介護というんですか、自立している方がいて、ちょっと要介護の方がいて、そういう世帯でも配食サービスはやりますよというような形で、ここは３００円で提供しているようなんですけども、ちょっと変わった組合せかなというふうに思って見てございます。条件いろいろ実際によって決めがあるかと思いますけども、概ね６５歳以上で食事のちょっと大変な部分があるよっていう方が対象になってくるかと思いますけれども、いずれにしてもですね毎日のようにコミュニケーションが取れるというのがやっぱりこれ、心強いサービスなんですよね。だから今のお聞きになった１０数名ですか、ちょっと私聞き漏らしたかな。配食サービスを受けている方がいらっしゃるというような形で聞いておりますけども、ようはですね告知の仕方にもよると思うんですよ。私が把握している部分では、多分民生委員さんなりが貴方どうですかというような形で案内をする。それか多分、ちょ

っと見るに見かねてという部分もあるのかもしれませんけども、よその町ではですね、やはりチラシを配ったりホームページに載せたり或いは、来るものは拒まずという事は無いかもしれませんけども、そういったように公募をかけてある程度ニーズを把握している部分がございますので、これ以上広がりをみせることに対して、財源がどうのこうのというような部分もあるかと思いますけれども、やはりニーズの捉え方っていうのは、いろいろだと思いますので、先ほど申し上げたように社会福祉協議会が、連携して上手くやって頂けるような方策があれば、それはそれで良いと思うんですけれども、やはり何といってもニーズの捉え方をどこに重点を置くかという事になりますので、はあとふる沼田、いろいろ連携サービス、連携をしながらですねやっている部分はお聞きしましたけれども、ここはちょっと突っ込んでですね行政サイドの方から住民の方に、こういうサービスをしたらどう思うかねというような提案をしていくのが私は良いのかなというふうに考えております。

その部分ちょっと追加でご回答頂ければというふうに思っております。よろしくお願いします。

○議長（小峯聡議長）はい、町長。

○町長（横山茂町長）毎日のようにコミュニケーションが取れるというのが、やはり一番の安否確認というか安心安全な、そんな町づくりのツールなんでしょうというふうに私も思います。

ただその、手法の一つである配食サービスが全員へのサービスである訳ではなくてですね、やはり希望されない方も当然いますし、まず今のままで良いかどうかっていう部分は、ご質問のとおり再度確認なり、利用促進というものも含めて対応していかなければいけないというふうに思います。あと、私としてはですね、やはり自宅にいるだけではなくて、やはりこの後にも出てきます安心センターという素晴らしい物がありますので、そこにやはり週に一度でも良い、週に二度でもいいから、出て来て頂いて、いろんな人とお話しできるような、そういうサポートっていうようなですね、取り組みも考えていかなければならないのかなというふうに思っています。いずれにしても、利用者拡大等もひっくるめて、改めてこの配食サービスというものを、もしかしたら知らない方もおられるかもしれませんので、その点については周知等で対応していきたいというふうに思います。

○議長（小峯聡議長）よろしいですか。

○２番（畑地誉議員）はい、それでは質問を終わらせて頂きます。

○議長（小峯聡議長）続いて１番、鵜野議員。今後のコンパクトエコタウン構想について質問して下さい。

○１番（鵜野範之議員）１番鵜野です。私の方からは、今後のコンパクトエコタウン構想について、町長にお聞きしたいなと思っております。今年度、ひも解いて考

えた時に、なかなかそれまでコンパクトエコタウン構想の関係については町長の方からも議員の方からもいろんな形の中で議題に乗っていたのかなと思ったんですけども、今年度なかなかそういった事が出てこなくなってきて、このままコンパクトエコタウン構想が無くなってしまうんじゃないかなという心配がありますので、それについてこれまでの経過を紐解きながら、質問させて頂きたいなというふうに考えております。

このコンパクトエコタウン構想が、我々町民に説明されたのが平成の２５年にされました。その構想っていうのは、将来的に沼田町の住民が安心して暮らせるための計画だという事で最初聞かされ、そしてそれを遂行する上で町民のヒアリングをやったり、ワークショップだったりを行ないながら基本構想がまとまっていったのかなというに考えておりますし、その後平成２９年には、１期工事の「まちなか」や「安心センター」っていう部分が完成していったという経過があります。ただ、この構想を進める上においては、施設整備計画っていうものを立てて、これも町民それから我々にとってでも説明があった訳ですけれども、１期工事から３期工事までとして、概ね平成３４年、令和になると令和３年までに終わらすという１０年プランだったのかなと考えております。

このプランについては、１期工事では診療所および店舗それから交流センターを建てていく、これについて２５年から２９年までに完成していきたいんだという事でしたし、また２期工事では、小規模多機能型の介護施設それからデイサービス、それから福祉施設などを２８年から平成３１年までに完成していきたい。それから３期工事では、高齢者ハウスそれから子育て支援ハウスなど住宅関係の施設と、それと周辺整備工事を含めて、この平成３４年までに終わしていきたいというプランだったかなというふうに考えております。

で、１期目の工事が終わり、２年が経過して今年で本当は２期工事の最終年の年が３１年なんですよね、まあ１期工事が終わった後、なかなかその後、計画が進まず、これはどうなっているんだという事で、それぞれ議員の方から２９年に１本、それから３０年に３本という事で、このコンパクトエコタウン構想の今後について質問されていたのかなというふうに思いますし、それにも関わらずまだ、今年度の中ででも、なかなか次の一歩が見えて来てないという事で、まあ基本的には町民が、もうこれでエコタウン構想終わったのかいっていう感覚でもいますし、このこと自体がコンパクトエコタウン構想自体は町民との合意の中で、こういう規模で計画していくんだよっていう話し合いの中で進めていった部分である以上は、やっぱり何らかの答えを出していかなきゃならないのかなというふうに考えております。

先ほどから言いますように、コンパクトエコタウン構想っていう名前自体が、死語になりつつあるのか、やっぱり今の安心センターが離れた中学校の跡地にポツン

と一軒家じゃないですけども、それで終わるのかっていう事については、そうではないのかなというふうに考えておりますし、今回新しい町長ということで、この関係については、まだそういった事でどういうふうに進めていくんだというお話しを聞いたことが無いんで、この場をお借りしながら今後のコンパクトエコタウン構想をどういうふうに考えていくのかっていう事をまず一つお聞きしたいなというふうに思います。

また、2期、3期工事にあたる介護施設だとか福祉、それから高齢者支援ハウス。今、最初に畑地議員の方から高齢者の福祉についてでもありましたけれども、沼田町もやっぱり高齢化率が４３％それから５０％近くなっていくという部分においては、なかなか待った状態が効かない時期に来ているんだろうな。町長の答弁の中にも今ありましたように、１１３５人それからこの5年間でまだまだ増えていくんだという時期を迎えてくると、こういった部分の施設整備を早急にしていかなければいけないというふうに考えている訳ですけれども、そういった事も含めながら今後の、このコンパクトエコタウン構想の考え方をお聞きしたいなというふうに思っております。よろしくお願いします。

○議長（小峯聡議長）はい、町長。

○町長（横山茂町長）コンパクトエコタウン構想は、なくなってはおりませんので、まずはご安心してほしいというふうに思います。ここまで細かな点、お話しする場面が無かったかと思いますので、改めて私の今の思いを含めて報告をさせてもらいたいと思います。今ほど経過については議員の方からもありましたので、変わった点を含めてちょっと説明をしたいと思いますが、当初1期工事では診療所、それから店舗、交流センターというものを計画をしていたところですが、その中で店舗に関しては、中心市街地の商業施設、活性化施設という事で、別枠で新築において展開をしておりますので、この安心センターの地域からは抜けているという点が変わってきているところですが、ただその説明を提示をしていた中で、多くの課題を解決するために2期工事で予定していたデイサービスセンターですね、これについては優先順位が高いという判断から、安心センターに合築して整備をされたという事でまずはご理解を頂きたいというふうに思います。

続いて小規模多機能或いは子育て支援ハウスについて、いわゆる次の計画の中で整備をするというふうにお示しをしていたものというふうに思いますが、優先順位は高くないであろうという判断のもと、これからの時代については、まずは住まいの整備を実施していくべきだろうというふうに私は思っています。高齢者住宅については、単純に住宅というレベルだけではなくて現在本町に開設をしております、特養旭寿園や和風園など、福祉施設との関連が大いにあるという状況から、私着任をさせて頂いた今年度ですね、内部の職員によりまして、高齢者住まいるプロジェ

クトという事で慎重かつ丁寧に今、検討している段階であります。その中で、まずは早急に高齢者向けの住宅については、整備が必要であるというふうに思っておりますので、この事業については、新年度予算に出来れば提案をしていきたいなと、設計等について提案をしていきたいというふうに考えているところであります。以上です。

○議長（小峯聡議長）はい。

○１番（鵜野範之議員）新年度予算にという話しで、びっくりしたんだけど、今までの計画の中で、やはり最初に町民に報告した中ででも、経過と共に、年代と共に、いろいろ計画変更をして行きながら進めていきたいという内容がある訳で、今後どういったことの整備計画をきちっと立てて進めていくのかっていう事が、まあ来年度については、この高齢者支援ハウスを予算化していきたいっていう話しを今初めて聞かさしてもらって、分かったわけなんですけども、今後したらそういった事も含めながら、あそこのコンパクトエコタウン構想自体の、あそこの最終的な仕上がりのイメージはどういうふうに考えているのか、これで終わってしまうのか、それともこれに更にこういった機能を付け加えながら、そこを賑わいの場にしていくのかっていう事がなかなか見えていかないというか、これまでの町長がっていう意味ではないんですけれども、例えば子育て支援ハウス、子育てのハウスにしたって、それから子育て広場にしてででも、やっぱりああいった所に一つに集中しながら、あそこの安心センターの中でお年寄りそれから子ども達が交流できるような広場だったのかなというふうに考えておりますし、この高齢者支援ハウスが出来た、まあ計画立ててくれるっていう事なんで、その後っていうか、そのスケジュールも含めながら今後の構想について再度、お伺いしたい。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）全体のスケジュールについてはですね、出来れば新年度に提案をさせて頂こうと思ってます基本設計、これについては高齢者住宅ばかりじゃなくて、今言われるように全体のいわゆる外構、全体計画ですね、その点も踏まえて更にはそれ以外の用途についてもですね、踏まえて整理をしていきたいなというふうに思ってます。ですので、設計をするイコール建設という状況ではなくて、意見をね、皆さんとも意見を聞きながら全体をスケジュール感を含めて取りまとめしていきたいなというそんな考え方でいるところであります。

○議長（小峯聡議長）はい、鵜野議員。

○１番（鵜野範之議員）私は今、町長の答弁の中で、設計イコール建設っていう感覚で一歩進んだのかなというような感じではいたんだけれども、計画っていう事ではスピード感が無さ過ぎるっていう意味で今質問さして頂いておりますし、あとそれに付帯する施設っていうか環境がどういうふうに持って行くのかっていうことも

やっぱり町長の今後の考え方をお聞きしたいなというふうに思っております。ただ、今までの議員がこれまで、それぞれ４人の議員がこう質問して、今後どうするんだといった時に、財源がっていう部分だとか、補助金がっていう部分で必ずそういった部分の話があったわけなんですけれども、基本的にはこの構想を始めるに当たっては国の事業の地域活性化モデル事業っていう部分で認可を受けながら始まった部分だと思いますし、なかなかその補助金がっていう部分については、当初私たち議員に説明受けた時には、横との連携の中でいろいろ予算が持っていけるんで、これだけの規模のものをこの期間でやっていきたいというような感覚だったのかな。まあ、そういうような私は感覚で受け止めさせてもらっていたわけですけれども、ただ単に来年度計画で、したらいつ出来るの、５年後っていう話しではないかなというふうに思いますので、そこら辺の計画イコールやっぱり実効性のある答弁をお聞きしたいなというふうに思います。

○議長（小峯聡議長）町長。

○町長（横山茂町長）事業を実施する上で、財源なくして実施は中々出来ないっていうのは当然ご理解は頂けるというふうに思いますので、例えば住宅に関してもですね今後の事を考えると直営で建設する事が理想なのか或いは、民間資本を投入し活用することも視野に入れて検討する事が良いのか、そういう点も踏まえて基本設計の中でですね、取りまとめをしていきたいというふうに思ってます。合わせて財源、事業費を含めて、財源確保を図る上での検討も合わせて取り組みを進めていきたいというふうに思ってます。いずれにしても、このコンパクトエコタウン構想全体のお示ししている概要がベースとなっているのは事実でありますので、その事をベースにしながらも、ただそれが全部実施を出来るかどうかというのは、これから皆さんと共にですね、また議論を交わしながら整理をしていきたいというふうに思っています。

○１番（鵜野範之議員）質問では無くて、終わりますけども、はやり町民にどういうふうに進めるかっていう事だけはきちっとやっぱり次年度は示して、これがどの年度でどういうふうにしていくのかっていう事が必要だと思いますので、合わせてお願い申し上げ私の質問の方を終わらせて頂きます。

○議長（小峯聡議長）続いて４番、高田議員。ほたる館運営の将来像を問うについて質問して下さい。

○４番（高田勲議員）４番、高田勲でございます。今日はですね、町民の憩いの場であるほたる館、将来的に町としてどういうふうに運営していこうかなというふうに考えているのか、横山町長のお考えをお伺いしたいなというふうに思います。

町長のＳＮＳ、昼に拝見してましたら昨日はどうも中学校の生徒さんと懇談会を行ったらしくて、その中にきっと沼田に残してほしい物、そういうふうな中身で会

話をされたというふうに書いてございましたのでね、きっとほたる館も沼田に残してほしい物の一個には入っているんだろうなていうふうに、そういふうに出たんだろうなというふうには解釈しておりますけど、１０月の商工会の理事会だったと思います。町長の耳にも入っているかと思いますが、ある理事から、ほたる館はいつまで続けるんだというふうな、そんな意見が出ました。これは１０月の商工会の理事会で出た意見です。私もですね、その時ほたる館が無い沼田町というのは、ちょっとイメージ出来なかったもので、ちょっと自分自身も戸惑いがあったんですけども、今日ですねそのほたる館は、良いとか悪いとか、あった方が良いとか無かった方が良いとかっていうそういう議論では無くて、今後どの様な議論が町の中で、ほたる館に対して必要なんだろうかっていう事を、ちょっと考えてみたいなこの場でみんなで考えてみたいなというふうな意味で質問をさせて頂きます。

今回から、こんなスクリーンを使うんですけども、私は依然としてアナログで、説明員の方の所にもこのグラフは行っていると思うんですけども、傍聴者の方にも行っているのかな。ちょっとグラフ、役場の人が使うような立派なグラフじゃないんですけども簡単に作ってみました。

平成２４年が、沼田開発公社が最後にやった指定管理の最終年。それから２５年度以降２９年までがシダックスさん。シダックス大新東ヒューマンサービスさんが、やって頂いた１期目、それから３０年度これが第２期目という事で、先だって決算も出ているようであります。今はですね、シダックスさんに運営管理をですね、お願いしてやって頂いているんですけども、施設の劣化とか老朽化が進んで大変な中でですね、本当に良くやってくれてるなというのが私の印象です。棒グラフの点線でこう繋いであるんですけども、これがシダックスさんと契約している指定管理料と、その他の施設管理料の推移であります。点線で結んである部分ですね、それと沼田町というか開発公社がやっていた最終年でもですね、約８，６００万ほど掛かっていたんですけども、今回は５千、６千、７千８００万位ですか、７，８００万。実はシダックスさんもこれに補てんしてくれているんで、もう少しかかってはいるんですけども、これくらいで町の手出しは済んでいるというのは、これは本当にシダックスさんの努力以外の何物でもない。ここまで経済環境が厳しい中で、健闘してくれているんだろうなというふうに思います。

ただですね、ここに来て、引き続きこのグラフを見てほしいんですけども、その一番上の四角、これがですね、工事修繕費と呼ばれるものです。当然町の建物ですので、でかい破損とかがあると町で修理をしなきゃいかん。これは当然のことであります。それで、例えば、平成２８年度が工事修繕費が１，５００万くらいだったのが、２９年度には平成２９年度には７，０００万にいきなり跳ね上がっている。それから平成３０年度になると９，０００万を超えている。これはですね、たまた

まイレギュラーがあったのかもしれないけども、きっとこれからも何も手を掛けないと、数千万の時代はしばらく続くんだろうなというふうに判断出来るのかなというふうに思います。

そろそろ大規模改修の時期なのかなという思いはします。近隣の町の温浴施設をみると、ここ数年大規模改修をして売上アップ、集客アップを果たしている施設もございます。ただ、この施設を大規模改修するとなると、きっと多分１５億円とか、１０億円ではきっと済まないんだろうな、近隣の町の状態をみても１０億円では絶対済まないんだろうと。１５億円掛かる。それと仮に大規模改修したら１５年は最低でも続けなければならないだろう。１５億円を１５年で割ると、1年１億の負担。それで指定管理料や施設の管理料。その他、諸修繕とかを１億入れると年間２億の負担。２億を１５年やると、３０億。これは本当に笑い話で聞いてほしいんでけども、平成多分７、８年位だと思います。まだ私も若かった。ほたる館出来たのは、おそらく６年だっていうふうに記憶しているんですけどもね、やっぱり遠くて冬大変だよねと仲間内と話している内に、沼田駅を改修して、まだ当時は留萌線がんがん走っていたのでね、沼田駅を改修して温泉を掘ろうかと言ったら、先輩方にあんたら、ほたる館潰す気かと怒られましたけども、本当にあそこにずっとほたる館が置いておいた方が良いのか、それとも代替施設があった方が良いのかっていうのは、今やはり、やらなきゃならない問題なのかな。考えなきゃならない問題なのかなっていうふうに私は思います。ほたる館が出来たときの人口はですね、多分４，８００人くらいだった。平成７年の国調の人口が４，７４５人です。現在今、３，０００人ちょっと位なんですけども、人口の減少率はマイナスの３７．５％。何年でしょう、約６年だとして、２５年か、２５年でそれくらいですね、ですから周辺人口も減少していますのでね、本当にあそこを改修するにしても何をするにしても、規模も含めてしっかりと町民議論を起こす必要がある。残すにしても、大改修するにしても、あそこをやめるにしても、どっちにしても町民は、我々もそうですけども、町もそうですけども、腹をくくってこれはやらんといかんと思うんですよ。中途半端な気持ちでやったら又後悔する。またでは無くて後々後悔するのでね、しっかりと腹をくくって今後の事を考えなきゃいかん。そのためには今、町でも公共施設の管理に関するいろんなプロジェクトチームが動いているんだと思うんですけど、庁舎内でね、庁舎内だけでなくて、町民巻き込んだ議論が必要ではないか。例えば、ほたる館があれば、町の商工業者は物品の調達なんかで、当然売り上げが上がります。町で唯一のこれは温浴施設なので、町民の憩いの場としての役割りもあるでしょう。町の観光拠点です。無くなれば、仮にですよ、無くなれば３０億のお金が浮くんですけども、雇用も減少するでしょう。人口も減るでしょう。いろんなセレモニーを行う為の代替施設もこれは必要となるでしょう。この辺のメリット、デメリ

ットをやっぱり町民の前にしっかりと提示して、町民議論を起こして町民も議会も、それから町も皆で同じ方向を向いて、施設のあり方を皆で意見を統一して進める必要があると思うんです。

今町の中では、いろんな検討をされていると思いますけども、町民の皆さんの中では、検討というかそんな事もないでしょうし、ほたる館去年、だいたい町の手出しが１億７千万ありました。このこともきっと、今初めて知ったよっていう人もいると思うんですよね、あの指定管理料だけが、ぼんと出てきますけども、その他にもお金が掛かっているんだよという事も知ってもらう為にも、今回一般質問した訳なんですけども、ほたる館良い悪いではなくて、町民としっかりと資料を出し合って議論する必要があると思うんだけども、横山町長のお考えをお伺いしたいというふうに思います。

○議長（小峯聡議長）町長。

○町長（横山茂町長）ご意見のありました温泉につきまして、私も過去に温泉に勤めさせて頂いてですね、４年と数ヶ月勉強させて頂きました。その当時ちょうど、今の白樺館の方を改修する時にも携わしてもらったんですけども、やはり現場に行かないと分からないことが多々あったという事も色々お話しさせてもらおうかなというふうに思いますが、いずれにしても他の近隣の施設が改修を、リフォームというかリニューアルをして、お客さんを確保されているようでございますが、私どもの施設については平成５年。源氏の館が平成５年にオープンしてますので２６年目となっているところです。今ほど言われるように、あちらこちら配管もひっくるめてですね、中々営業収入を上げられる部分では無い所にもいろいろとお金が掛かってきているところで、先ほどの資料でいうその改修費用が結構掛かってきているのが実情であります。

厳しい状況の中、シダックスさんと共にですね、専任の営業部長も配置を頂いて、徐々に売り上げも回復されてきている所ではありますが、集客については改善計画もありますけども、入浴・宴会部門については非常にまだ厳しい状況である所です。私の思いとしては、とかく町民の憩いの場、癒し、健康増進の場であるこの施設は、私は無くすことは出来ないというふうに思っています。当然のことながら宿泊施設でもあり、町民の憩いの場、健康の場、そういう場所としての機能は当然必要だというふうに思ってますし、それ以上にその周辺の資源を含めたですね、やはり観光資源としての位置づけが強い。そんな状況を考えると、私のあの施設は、他の近隣の、いわゆる掘り上げた温泉施設とは全く違って、本当に源泉は１００年以上前に発見されて今に至っているわけで、その他の施設とは全く違うというふうに認識もしてますし、やはりあの場所、あの環境だからこそ全国から人を呼べると私は思ってます。そのくらいの環境であり、全国を相手にする、人を呼べる、そんな施設で

あろうと、そんなふうに私は思っているところですし、何といっても地域の稼ぐ力という物の一つであろうというふうに思ってます。ですので、今後においては、やはり無くてはならない、そういう施設であろうというふうに思いますので、どこまでの整備をどのくらいの費用をかけてという部分については今、施設のあり方プロジェクトの中で検討して、皆さんと共にですね、今後の対策については議論をし、検討していきたいというふうに思っているところであります。私の方からは以上です。

○議長（小峯聡議長）はい、高田議員。

○４番（高田勲議員）はい、今町長からもあったように、売り上げについては本当に、本当に頑張って、周りの人口が減っているのに維持するっていうのは大変な事なんですよ。それでも、あれだけ良く僕はやってくれていると思いますよ。ただ、本当に残念なのは、本来お客を増やすためにやらなきゃいけない設備投資が、その施設の基本、機能の部分にだけ使われて、例えばお湯を引っ張るとか、水道を出すとか、部屋を暖めるとか、そんなのは当たり前の基本機能なんですよ、その部分に使われて集客のための基本機能にお金が使われていない事が、今一番問題なのかなというふうに思います。

本当に段々だんだん古くなると、ここにも書いてありますけども、施設の魅力とか競争力が、どんどんどんどん落ちてくる。年を追って落ちてくる。逆に指定管理をして頂いているシダックスさんに気の毒でしょうがない的な、もっと早い段階で、こんなに９千万も掛かる前に本当は、もっとお金があればさっと改修したかったんだけれども、まあきっとそうもならないのかなというふうに思いますけども、ちょっと観点を変えて、大規模改修に関しては、町長は、僕はある程度本当に腹をくくって、規模をどの程度にするかは別問題ですが、やらなきゃいけないんだろうなと思っているんですけども、そうでないと後、何年後かにまた指定管理者の切り替えの時期も来るんだけども、再更新の時期も来るんだけどもシダックスさんだって受けてくれるか分かりませんよ。だとしたら、しっかりとした、今２年目なんだけども、あと２年したらこんな話もしなきゃいけないんですよ、その間に、ある程度施設をしっかりさせて、それで規模も見直すんだったら見直して、それには町民合意が必要なんですけども、しっかり見直して、それで次の５年間の計画をしっかり立てなきゃないけない。それが町政の運営だと思いますけども町長如何でしょうか。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）言われるとおり、実施を頂く方にも安心して運営をして頂くっていうそういう視点では当然、私もそういうふうに思います。ですので、その事も踏まえて費用等。ただ、実施をするには、金が相当いりますのでね、その分の準備というものも必要ですし、当然町民の方々と議論というものも必要ですし、その

点を踏まえながら前に進めていきたいというふうに思います。
○議長（小峯聡議長）はい、高田議員。
○４番（高田勲議員）今、施設のあり方プロジェクト等を庁内の中でやっていると思うんですけども、このほたる館の件に関してはですね、庁舎の中だけで無くて、その中の別部隊でもいいですから、是非ですね色んな資料を提示しながら、町民の意見を是非聞いて、それをこの施設のあり方プロジェクトの報告書に反映して是非頂きたいと思います。これについて、最後の質問ですが町長如何でしょうか。
○議長（小峯聡議長）横山町長。
○町長（横山茂町長）はい、今内部で取りまとめをしているのは、あくまでもたたき台となるような、そういうレベルでしかないと思いますので、その形はどうであれ、町民の方々にですね、ご意見を頂いてその点を踏まえて整理をして行きたいというふうに思います。
○４番（高田勲議員）分かりました。終わります。
○議長（小峯聡議長）はい、続いて３番、久保議員。ＪＲイベントは終わった。さぁ、利用促進事業の実行だ、について質問して下さい。
○３番（久保元宏議員）はい、それでは３番久保です。ＪＲイベントは終わった。さぁ、利用促進事業の実行だについて町長に質問を申し上げたいと思います。

横山町長はこの春、当選後、最初の６月の定例議会において、私の一般質問に答えて頂きました。ＪＲに対して議論をさせて頂いたんですが、ＪＲ留萌線は存続を目指すと町長は明言を頂き、更に１日１km当たりの輸送密度が１５０人台にまで下がったのを、短期間のうちに少しでも上げたい。単発のイベントにとどまらず、第２、第３の策を講じる必要があると、私の、つまり横山町長の選挙公約である交流人口の拡大とＪＲの利用促進を結びつけると語りました。そこで、まずは１０月のＮＨＫの連続テレビ小説『すずらん』放送２０周年イベントと、１１月のシンポジウムイベントが終りました。さらに役場内に、産業創出課ＪＲ留萌本線対策室を設置致しました。

いよいよ、ここからが町長の利用促進の事業の本番だと私は考えておりますし、町長も、そのつもりで取り組まれる事だと思います。その事に関して、まずは5つの観点から複合的に伺ってみたいと思います。

一つ、留萌本線対策室の効果的な政策は何か。室を作ったからには、おそらく戦略があると思います。どのような事を準備されているのか、また数値目標があるのか、１km当たりの輸送人員を２００人にするとか、本数拡大だとか、更に我々が考えていないようなアイディアがあるのか、その数値目標について伺いたいと思います。

二つ目、長生クラブも掃除されてますがＪＲ石狩沼田駅、この駅舎の事なんです

が、どうも空洞化が目立ちます。同じ近隣でも秩父別の駅のホームには、綺麗な花壇があります。そして妹背牛は駅前で、町民がラジオ体操を朝やったりとか、行政と町民が一緒になって駅を中心とした美化運動と申しましょうか、イベント事業をされています。ところが沼田町はトムトム広場の真ん前であるにも関わらず、大型スクリーンの設備もあるにも関わらず、なかなか空洞化が目立つのではないかと、そうなれば例えば、ふるさと資料館の所蔵品で、駅関係の物を陳列するとか、今回いよいよ実行されました、明日萌の里フォトコンテストＪＲ部門の写真を飾るとか、思い出の、昔階段があって、三車線、四車線あった沼田駅の写真を飾られるのか、更には定期的なカフェや物産販売や町長との懇話会場など切れ目のない活性化を演出すべきだと思います。沼田町には、道の駅は無いし、これから計画があるかもしれませんが、本物の道の駅があるので、正しく駅こそが町長の公約である交流人口の拠点だと思いますので、この駅を空洞化のまんま、ほっとくという事は非常にもったいないと思いますが、そこにお考えがあればお示し頂きたい。

三つ目、ＪＲのキップの購買が、なかなか不便になってきています。いろんな方が働いていますが、どうしても同じ札幌に行くにしても、旭川に行くにしても深川で買ってしまったりとかして、ＪＲ沼田駅の営業力が、そこでもちょっともったいなく失われているという事もありますので、例えばＪＲの切符を町内の商店で購入できるようにして、ＪＲ石狩沼田駅の売り上げの向上と、各商店への入店の機会創出の相乗効果を生むと、これもまた町長のお考えの交流人口に全く結びつくお話しだと考えますが如何でしょうか。

そして四つ目なんですが、これももったいないなと思っている、町民の皆さんも思っていますが、夜高あんどん列車が無くなりまして、本来であれば、あんどんのフィナーレは、９時半から１０時。この一番魅力的な時間帯にマッチングする列車がかつてはあったのが、それが無くなりました。今から、来年の８月に向けて、フィナーレの花火が見れる夜高あんどん列車の復活を頼むことによって、ＪＲも売り上げが伸びますし、観光客の方も喜ばれる。観光創出にもなるのではないかと、正しくこれがＪＲに取り組む町づくりではないかと思い、提案を申し上げます。

五つ目、バス転換の話も出てますので、このバス転換の話も近来、急に厳しいという話しが町長の耳にも入ったと思います。町長もシンポジウムその他で、過去沼田町に走っていた国鉄バスが無くなったことの口惜しさを語っていた事も耳にしております。正しくそのような同じような事が、起こりうる可能性もあります。町内のバスを持っている企業も運転手不足に悩んでいるという話しも、非常に切実に我々も伺っているところです。バス転換がしたところで、運転手の不足や持続の不安があれば、結果的に短期的にＪＲがバスに変わったといっても、無くなってしまえば町民の足がなくなる。そうなれば、町づくりが崩壊してしまい、人口減少に加

速化するのではないか、この事に関してもこの機会に意見を伺いたいと思います。

総じて、沼田町の人口が今、３千人を切ろうとしています。来年切るんじゃないか、再来年切るんじゃないか、もう既に切っているんじゃないか、そんなような話を町民も囁くような事になりましたし、我々議員も悩むところでございます。１５年おきに千人づつ切っているので、５千人が４千人になり、そして３０年経って正しく２千人台になるのかなという時に、高校が無い、入院もできない、そしてＪＲが無いとなると、これから公営住宅その他で、子育て世帯が新築の家を建てようと悩んでいるところに、学校がある深川に建てようか、旭川に建てようか、滝川に建てようか、そしてお父さんは車で通勤し、子どもは部活と塾に通える。そのためには沼田町はＪＲが無いと辛いのではないかと、そのような判断が実に切実になってきてると思います。子育て世帯を中心に、町外に流出をしないために、すぐに人口が２５００人の時代が来ないためにも、はやりここはＪＲという大きなインフラは沼田町にとっては、必要な物だと思っています。

翻って、北海道ＪＲの現状ですが、１２月４日に公表した、２０１９年４月から９月期の区間別収支状況によりますと、札幌圏は営業黒字になったようですが、札幌の営業黒字というのは、北海道の札幌の市民だけが乗っているわけではなくて、例えばドル箱と言われている千歳空港への快速エアポートに乗っているのは、町長や我々一般町民も乗ってますし、北空知の人も乗ってますし、留萌の人も乗っています。やはり、線路はどこまでも続くから機能するという発想に基づいて、ＪＲ留萌本線の乗客が、そのまま続く札幌圏や新幹線に乗ってこれから沼田の駅前に乗れば、そのまんま日本中に繋がっていけるという、そういうような環境を残すことは、実はＪＲ北海道全体の可能性にも繋がることだと思います。そして深川市も、ＪＲ留萌本線が無くなれば、各駅停車のみの普通駅になる可能性も大にあります。そうなれば、深川市から法務局のみならず税務署、裁判所、保健所、高校などの国や道の施設が一気に撤退し、単なる普通の町になってしまう可能性があります。ＪＲ留萌本線がなくなるのは、もしかしたら沼田以上に深川市の可能性もあります。また免許返納や運転手不足で超・長寿時代、そして物流は環境に配慮する時代こそ鉄路が最先端だという話しも大きくなってきている昨今、是非、広域かつ未来志向で考察し、持続可能な利用促進事業の展開を希望します。よろしくお願いします。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）はい、イベントは終わった。いや、まだ続きます。年明けにもですね、クラウス１５号のシンポジウム。炭鉄港に関連するシンポジウムを予定をしておりますので、また改めて周知をさせて頂きますので、皆さんにご参加頂きたいというふうに思います。それで、たくさんのご質問がありますので、まず一つ目。

効果的な政策は何かという事ですが、私が一番思うのは、やはり今はマイレール。やはり町民の皆さんが、この鉄道に関してですね、更に興味を持ってもらう。みんなで守って行こうという、そういう環境がやっぱり僕は、最重要課題なのかなというふうに思ってます。いわゆるマイレール意識の向上ですね。マイレール、はい。それを踏まえてですね、今後の取り組みは、とかく地域の内外から利用促進して頂けるような、そんな取り組みを作っていくべきだろうと私は思っております。

具体的に、じゃあは何するんですかと、これは今新年度に向けて今、検討しているアイディアベースですが、町の資源を利用したツアーですとかね、或いは小学生や子育て世代向けの事業の実施。今年も小学校のある学年が、ＪＲに乗ったことがないということで、社会見学の一環で深川までＪＲを使って授業をして頂いたというふうに聞きました。そんな事も聞いた中では、ＪＲに乗ったことがないそうです。子どもさんがね。ですので、そういう子育て世代或いは、小学生の皆さんが利用できるような、そんな事業も実施をしていくべきだろうなというふうに思ってます。あと、駅の今ほどの質問にもありましたけれども、駅の利用或いは周辺美化。そういう取り組みも行うこと。それと、出来れば助成制度などを含めた新たな利用客の発掘についても取り組んでいきたいというふうに思っているところであります。

数値目標についてどうするんだということですが、とかく現状より上げていくためには、やっぱり利用促進をするしかない。目標を１５０人を２００人にっていうそんな思いが無いわけでな無いんですが、とかく利用促進策と合わせて、先般のシンポジウムでもお話しさせてもらいました。環境に配慮された、鉄路運行の必要性を訴えること、それから上下分離方式の可能性などについても、是非とも世論の応援ももらいながらですね、我々の線区が、黄色線区と同じく国や道に支援頂けるような、そんな取り組みに結び付けていきたいというふうに思ってます。

２点目の、空洞化。駅の空洞化についてですが、最近の沼田駅の状況は多分議員さん、ご覧になられて頂いてないのかなというふうに思いましたが、その駅の中。特に、掲示板の有効利用についてはＪＲさんの御了解も頂いてですね、いろいろな町のＰＲをさせて頂いています。スペースを活用させて頂いているのと、その中には、あんどんですとか、化石、ほたる、クラウスだとかそういう物の写真ですとか或は、町の知っ得情報など、そういうものも掲示をさせてもらってますので、是非ご覧頂きたいというふうに思いますし、あと先ほど言うように今後、美化作業ですとかね、駅舎の活用についても現在ＪＲと協議をしておりまして、協議が整い次第、積極的に利活用していきたいというふうに思ってます。出来れば駅舎をですね、例えば花いっぱいに飾るだとか、そんな事を出来ることによって、わざわざでも駅舎を見に来てくれるような人方が訪れるような、そんな環境を町民皆さんの力を借りながらですね、出来たらいいなというふうに私は思っています。

それから３点目の切符の購入に関してですが、ＪＲキップの販売については、現在商工会が販売できる契約をＪＲと結んでいるというところであります。確認したところ、他の商店でも契約をすることによって販売することは可能のようです。ただ、現在の販売員の方、いわゆる固定した収入って言いますかね、と合わせて売れた分のマージンが入るという仕組みですので、この点については現状を取り扱いをして頂いている方の売り上げが、例えば少なくなるだとかね、そういう事も影響するので、ちょっと慎重に対応すべきかなとは思っています。

それからフィナーレの花火、夜高あんどん列車の復活のついては、お祭り当日９時半以降の臨時列車の運行について、ＪＲと協議をしている最中であります。回送列車の使用も含め、細部について検討していきたいというふうな考え方でおりますのでご理解を頂きたいと思います。

最後にバス転換についての考察ですが、これについても先般のシンポジウムでも提案をさせて頂いておりますが、鉄路を含めたあらゆる公共交通をＩＴを活用して、シームレスな状態で結びつける手法、非常に難しい、マースと言う手法があるところです。今後、その公共交通を、持続可能な環境とするために有効な手段であると国も提唱しているところでありまして、この手法も検討しながらですね、この過疎地においても取り組めるかどうかを検討してみたいなというふうに思っています。いずれにしても、将来的には自動運転技術も取り入れた時代が到来する可能性も出てきていますので、人手不足の環境を考えた場合、やはりこの鉄路が重要な役割であるというふうに思いますので、沼田ばかりではなくてですね、北空知圏或いは留萌圏の方も含め、この新たな手法を活用できるような事も、提案をしていきたいというふうに思いますし、その事を含めてですね視野に入れて、次世代モビリティサービスという研究会が今、道内で起ちあがっておりますので、そちらの方も参画をしながら検討して参りたいというふうに思ってます。

最後にいろいろとご要望がありました点、とかく鉄路、鉄道に関しては、やはり環境に配慮された一番の交通システムであろうと私は思っておりますし、その旨も先般のシンポジウムでも提案をさせて頂いた次第であります。直接関係にあるかどうかあれですが、先般もＣＯＰ２５で、１６歳の少女が、グレタさんがね、環境問題は待ったなしだというふうに、あれだけの中で提案をされている。その事を考えれば、我々過疎地域であっても、やはりその事を考えて是非とも取り組めることは取り組んでいくべきだというふうに思いますし、鉄路輸送にシフトする事によって、もしかすると人手不足の運転手の解消にも繋がるであろうし、環境にも配慮したそういう取り組みにも繋がるだろうというふうに思いますので、我々としても未来につなげる提案を、未来につながる行動を考えて、積極的に関係者に要望をしていきたいというふうに思っています。

○議長（小峯聡議長）はい、久保議員。
○３番（久保元宏議員）丁寧な回答ありがとうございます。５つ回答をそれぞれ頂きましたので、簡単に私の考えも述べさせて頂きます。やはり数値目標、ガチガチに作れとは言いませんが、町長最低でも現状より増やしたいとおっしゃってましたので、そこは今のラインを切らないというのを目標としてもよろしいんじゃないかと私は思います。倍にせいとか２００にするというのも、よりも現状を維持するというのも一つの大きな目標だと思います。本日も議会の方に、ほたる館の資料を頂きましたが、定期的にＪＲ留萌線の輸送人員の報告を頂戴してＪＲの情報と、我々現場で議論している者が同じデータで議論できるような、そういうテーブルを産業創出課のＪＲ留萌本線対策室にお願いをしたいなと考えております。そこでまた、効果的な政策が出るのではないかと、効果的な政策についてはまた後ほど触れます。

あとＪＲキップの事に関しましては、町長のおっしゃることもそうなんですけども、売店で売っている方のマージンの事を最優先するよりも、まずは利用率を上げる。利用促進をするという方向、それと一般商店とＪＲに乗る方の交流の場を設けて、商店に入ってくる機会を創出する。確かに売店の営業の方のマージンも大切かもしれませんが、そこは工夫によって乗り切れるような金額の問題だと思います。ここは、商工会が云々という事も私も存じてますので、ちょっとしたアレンジで出来ると思いますので、これは知恵を絞る価値があるかなと思ってます。

夜高あんどん列車に関しては非常に良い情報を頂きましたので、我々も私も勿論応援させて頂きますので、その方向で良い答が来るのを待っています。

そこで添付資料で、４枚の物を上げさしてもらいました。傍聴者にも行っていると思うんですが、この後に載っております。これ実は、今回初めて作ったんでは無くて２０１７年６月の定例議会に、当時の金平町長と議論した時に使った資料と全く同じなんですが、ここで１頁目には、その時に議論させてもらったＪＲの問題点を私なりにまとめたものを書かさせて頂いてます。時間軸で、維持するためにはどうなのか、そして生活と環境それぞれにＪＲの必要性について議論しています。そして頁をめくって、次の２枚目から１から５まで当時、こんな事したらどうかって事も議論させてもらいました。この中の１番のＪＲ留萌本線フォトコンテスト、そして２番目のＮＨＫ「すずらん」２０周年プレイベントに関しては、町長ありますか。あげますか。これが、資料ないですか。スクリーンに投影しますか。今事務局取りに行きましたので、ちょっと続けて、お蔭様でこの１番のＪＲ留萌本線フォトコンテストとＮＨＫ「すずらん」２０周年プレイベントに関しましては、皆さんの御協力も頂きまして実現されてます。そしてこの３番目の、ＪＲ往復切符で沼田と留萌の間で、握り寿司を食べると、実は先ほど町長が、久保は最近駅に行ってないだろうとお叱り頂きましたが、１０月までは私も駅を利用してまして、たまたま１

１月から私の商売が忙しくて、駅には行きませんでしたけど、確か１０月まではその展示はされてませんでしたよね。１１月以降の話ですよね、それのＰＲを何故しないのかと私は逆に思いますよね。是非、そこまでやって頂いているんだったら我々も見たいですし、足を伸ばすように声をかけたいなと思ってます。ＰＲされているんであれば私の耳が遠いのか、もしくはＰＲと一般町民とのマッチングは鈍いのかという気もします。駅を利用して、すでにあるインフラとしてある、沼田発４時２６分で、帰り留萌発８時２０分に関して、留萌のお薦め寿司の握りセットから生ビールまで３千円云々ということ、４枚目の頁めくって、これに関しては、これ三國清三のシェフに乗ってもらって、深川駅から当時まだあった増毛駅まで、それぞれご当地の深川のシードルや沼田町の黒毛和牛や、留萌の鮮魚、増毛のフルーツということを食べるというようなツアーを考えています。最後の頁、５頁のＪＲ留萌本線音楽ＣＤというのは、音楽のＣＤというのは１枚だいたい７４分ですので、それに駅にあった曲をそれぞれ深川駅から北一巳、秩父別、沼田、真布、大和田、留萌、舎熊、増毛と渡って、その間に地元の係わるミュージシャンを含めて、それで１枚を作ると、こういうような、これは例えの例なんですが、こういうことをする事によって、正しく町長の言っている交流人口の創出というのが図られると思います。ここで交流する事になるミュージシャンがおそらく、各地で沼田町を告知してくれますし、ＣＤを販売する事によって、またそれなりの宣伝というか、知名度を上げるような事にもなると思います。これが取りあえずサンプルとして作ったＣＤがありますので、こういう物なんですが、（久保議員、ＣＤを掲げる）ＣＤというものは皆さんご存知だと思うんですけども、これ後ほど町長に聞いて頂きますので、またこのとおり、お時間忙しいと思いますが是非、こんな物、例えばこんな物ということで、ＪＲ留萌本線を感じられるＣＤを是非３役の方と仲良く聞いて頂ければと思います。

そして、このような事を、まあフォトコンテストをやって、すずらんのイベントをやって、更にクラウス１５号のイベントを来年やる。で、その中でですね町長が、前回シンポジウムイベントで議論された時に、商工会長と一緒に日本旅行地方創生推進室渉外部長の永山茂さんと議論された時にですね、これやっぱり民間旅行社との共同によって魅力と儲け、町長の言葉でいう稼ぐ力、それを作っていくっていう方向というのは良いんじゃないかと思いました。ＪＴＢでもよろしいですし、旅行会社いっぱいありますし、沼田町にも広域で活躍されている、インバウンドで活躍されているバス会社もありますし、この時当日、商工会長はやれることは全部やると語っております。このシンポジウムもそれこそ、イベントイベントというキーワードを私は否定的に使っておりますが、イベントから促進事業にシームレスに転換させるためには、本件である民間旅行会社と共同による旅行パッケージの商品化、

これを早急に具体化すると、この中に正しくＣＤだとか、フォトコンテストだとか、クラウス１５号のイベント、更には夜高あんどんの列車、そこら辺はどんぴしゃで、ど真ん中で入ってくる事なんです。これだけコンテンスのメニューのある線路はおそらく、北海道、日本でもＪＲ留萌本線だけではないかという事になりますし、正しく先ほどの、ほたる館の議論もそうですが、沼田町のコンテンスを留萌本線一本で凝縮させるという可能性があります。そこに関して長々と申しましたが、具体的な政策をする事に関して民間旅行会社との共同によるプランは、このシンポジウムを通してどの様に考えているかっていうことも伺いたいと思います。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）はい、その前に駅舎のＰＲ、なかなか伝わってなかったようですので、日に日に変わっていっていると思います。是非、足を運んで頂ければというふうに思います。で、民間業者とのコラボについてはですね、具体的にこのパックを作ろうという、そんな話はまだ至っていないところですが、今後商品化出来るようにですね、我々としても動いていくべきであろうと思ってますし、新たな利用者の確保に向けて是非とも実現してみたいというふうに思ってます。それと先ほどのＣＤですが、是非それは販売も含めて考えていかれてはどうかなと思います。私の方からは以上です。

○議長（小峯聡議長）久保議員。

○３番（久保元宏議員）ありがとうございます。先ほど、町長の言葉から引用したんですが、改めて町長はいろいろな所で、国鉄バスも無くなり、沼田高校も無くなった苦い経験という事を語って頂いています。その気持ちは沼田町の我々、特に５０代、６０代の責任世代は一番重く感じていると思います。今日の、今回の町長の一般質問で浮かび上がってきた事っておそらく、横山町長はＪＲの利用促進を語ることによって沼田町の未来を語ろうとしてるんじゃないかなと思ってますし、私もそれに対しては具体策も必要だと思っています。町長が選挙の時に訴えられた重要施策５つ、交流人口の拡大、産業の振興、雪利用の創出と産業の創出、教育、子育て環境の充実、町民福祉の向上。これは全部ＪＲの利用促進に関わることです。そこで、最後の質問ですが、国への支援。国交省も含め、国はかなり厳しい事も言ってます。国への支援を求めているっていう事も町長でなければならないＪＲ利用促進の一つの大きな仕事だと思います。国への支援に対して、どの様な姿勢でどの様な考え方で向い合うのか、それを最後に伺いたいと思います。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）差し当たり、国、道にですね、要請に関しては、現役の町村会と、或いは期成会によってですね、要望はさせて頂いているところです。ただ、それだけではやはり、済まないであろうというふうに思いますので、改めて場を設

定をして、そこには私だけでは無くてですね、町民の力も借りながら、今ちょっと戦略は考えているところでありますので、その際にはご協力頂く場面もあろうかと思いますので、よろしくお願いしたいというふうに思います。
○３番（久保元宏議員）終わります。
○議長（小峯聡議長）ここで暫時休憩致します。ちょっと短いですけど、あの時計で２時３５分まで休憩をします。

１４時３０分　休憩

１４時２５分　再開

（一　般　質　問）

○議長（小峯聡議長）それでは再開致します。５番篠原議員。ＪＲ留萌本線存続に向けて沿線自治体が協力して取り組むべきではについて質問して下さい。
○５番（篠原暁議員）５番、篠原です。私は合計３点について質問致しますけれども、まず１点目、ＪＲ留萌本線存続に向けて沿線自治体が協力して取り組むべきではという事で町長に質問を致します。

今ほど久保議員の質問の中でも多々議論されましたので、大分私の部分も軽くなったかなというふうには思うんですけれども、ＪＲ留萌本線の問題について今ほど、横山町長の方からも存続に向けて強い意志を持って取り組むというような事が確認できたと思います。一方ですね、今留萌市の動向が非常に注目されていると思うんですけども、先ごろ沼田町において正に留萌線存続の可能性を探るシンポジウムが開催されていたのと同じ１１月２４日の日に、留萌市では住民説明会が開催されていました。それを受けて、１１月２６日の新聞報道で、留萌市の中西市長が国や道の支援を得ることが大変困難な状況であり、支援がなければ留萌市単独でＪＲ留萌線を維持する事は難しいと、事実上路線廃止容認とも取れるような認識を示したという事が報道されていました。報道では、その後１２月中旬に向けて沿線自治体会議が開かれるというような事になっていましたけれども、現段階では年内の開催の目途はたっていないのではないかなと、いうふうにも思いますけれども、そこで改めてですね、以下の３点について町長に質問を致します。

まず一つ目ですけれども、今後開かれる予定の沿線自治体会議において、沼田町はほかの自治体、とりわけ今申し上げた留萌市に対して、どのように働きかけていこうとしているかという事についてお聞きしたいと思います。

二つ目、仮に留萌市が路線廃止を容認したという場合でも、一部の中に沼田と深川間だけでも残すというような議論もあるように聞こえてきますが、沼田町にとって留萌まで線路がつながっていてこそ様々な利用促進策も効果を発揮することが言えると思います。先ほどの議論の中でも、その事が言われていたと思いますけれど

も、重ねてその点についてどうお考えかお聞きします。

三点目、バス転換の議論についてですけれども、これも先ほどの議論の中にもありましたけれども、バスに転換してもいずれ、いろいろな運転手不足の問題などなどいろいろな問題で困難に直面していくという事が予想されている訳ですけれども、留萌線鉄道を廃止してバスに転換するという発送ではなくて、それぞれに良いところがあると思います。その長所を活かして、現在もそうですけれども共存していくという形を探っていくことが必要ではないかなというふうに私は考えていますけれどもそれについて町長はどの様に考えているでしょうか。以上、よろしくお願い致します。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）まず１点目の、沿線における留萌への働きかけ、具体的な事はここでは答弁は避けさせて頂きたいと思いますが、今までと同じようにですね、留萌本線存続の考え方を沿線自治体の枠組みで維持した中で、継続するよう働きかけていきたいというふうに思います。その中で、出来得ればですね、先ほど久保議員にも回答した通り、今後の公共交通の新たな手法でもありますマース。この点を含めて圏域としてもですね、検証、検討に着手出来ないか、こんな点を踏まえて調整してみたいなというふうに思ってます。

それから２点目の件でございますが、この件は議員が言われる通りでございまして、あと先ほどの久保議員の質問でもお答えしたとおり、留萌圏域まで含めた鉄路存続が必要であろうというふうに思ってます。先のシンポジウムでも提案したとおり、北海道には来年度、４００万人を超えるであろう外国人の方が来る見込みであります。数年の内には、北海道の人口よりも多い方々が北海道に来道するだろうと。その事を考えれば、やはり訪日外国人をいかに地域に呼び込むか。これは鉄路ばかりではなくて、地域振興を考えると是非とも鉄道に乗って来てもらう。そんな事をやはり考える時期だろうと私は思ってます。でなければやはり、持続可能な環境は絶対に作れないというふうに思っていますので、先を見込んで人を呼び込むための戦略そして、その体制と環境づくりが今、重要な時期だというふうに私は思っていますので、その対策に向けてですね、対応を考えていきたいと思ってます。

それから最後のバス転換するのではなく、長所を活かした共存の道についてですが、例えば空知中央バスの沼田線については、やはり通院には欠かせない交通機関であろうというふうに思ってます。町も毎年負担した中で維持されているという状況ですので、この点も先ほど申し上げたとおり、今後あらゆる公共交通機関をですね、シームレスに利用できる手法などを検討し、それぞれの利用が向上されることを含めて検討していくべきだろうというふうに思ってます。で、一方で公共交通事業者側についてもですね、是非とも乗って頂けるための何らかの策ですとか、アイ

ディアが必要だろうというふうに思いますので、それぞれの考えを含めた圏域としてですね協議できるような場が必要でないかなというふうに思ってます。以上です。
○議長（小峯聡議長）はい、篠原議員。
○５番（篠原暁議員）はい、概ね非常に心強い回答を頂いたかなというふうに思っていますけれども、三つ目のバス路線の事に関してですね、もう少し捕捉させて頂きたいなと思うんですけども、留萌市がある程度、ＪＲの路線廃止もやむを得ないというような姿勢を示している一つの理由と言いますか、そこは来年にも控えている、深川留萌道の開通とか、留萌駅周辺にある道の駅の開発などによって、バスを活かした活性化っていう事を考えているのかなというふうに思うんですけども、例えばバスで札幌まで行こうと考えた時に留萌の市民にとっては、沿岸バスでしょうかね、高速便があって札幌まで乗り換えなしでまっすぐ行けると、非常に料金もリーズナブルで時間的にもＪＲ乗換の部分を入れれば、ＪＲとそんなに変わらないのかなというふうに思ってますから、そういう点でやはり留萌市はＪＲある程度、もう廃止でもやむを得ないというふうに考えているのかなと思うのですけれども、沼田町にとっては、おそらく高速バスのメリットっていうのは今後、具体的にそういう計画になった時にまた詳しく議論されると思いますけれども、それほど今時点でそういう事をメリットとして考えているという事はないかなとは思うんですけども、むしろやっぱり、ＪＲは深川で乗換はありますけれども、非常に快適に札幌まで行けるという事と、それから今町長もおっしゃったように、北空知中央バスは現行において、深川まで病院に通院する足として非常に大切な役目も担っているわけで、そういう意味で、例えばＪＲが先ほど久保議員との議論の中でもあったように、鉄道っていうのは非常に環境負荷も少ない、～～に向いているという考えも示して頂きましたけども、そういうＪＲを縦の糸にして、バスは非常にローカルで小回りが利く。ある程度細かくストップをしながら目的地まで行けるという事もありますので、それを横糸にするという事で、高速バスではまっすぐ札幌まで行ってしまいますから、出発点と終着点を繋ぐ線でしかないんですけども、その線から縦糸と横糸を絡めた面に広げることが出来るという事で、私が最初に言ったそのバスと鉄道の共存という事が現実的に成り立ってくるのかなというふうに思っていますので、その点、バスについても勿論大事だし、そしてＪＲも無くすことは出来ないという事なのかなと思うんですけども重ねてそういう考えでよろしいでしょうか。
○議長（小峯聡議長）横山町長。
○町長（横山茂町長）基本的には、バスもＪＲも残すべきかという質問ですか。
（篠原議員「はい」）はい、それはもう答えるまでもなく、今までも答えているつもりですし、それぞれの利用者というかね、環境を維持するためには必要な事だというふうに思ってますし、それを出来る限り皆さんと残すことをするために、いろん

なアイディアを出しながらですね、利用向上策を探っていければというふうに思ってます。
○議長（小峯聡議長）よろしいですか。はい。
○５番（篠原暁議員）大体よろしいんですけども、最後に駅が無くなると町はどんどん衰退するという事が言われています。一般論として、学校が無くなり、駅が無くなり、そして町が無くなるという事が言われますので、沼田町は既に沼田高校を無くしてしまいましたので、この駅だけは何としても最後まで維持して頂きたいなという事で質問を終わりたいと思います。
○議長（小峯聡議長）それでは続いて、介護現場の状況を改善するために何が必要かの質問をして下さい。
○５番（篠原暁議員）それでは二つ目として、介護現場の状況を改善するために何が必要かということで、町長に質問をさせて頂きます。私たちは皆等しく、いずれは高齢者となっていく訳ですけれども、介護が必要となった時に安心して沼田に住み続けられるために、老人ホーム等介護施設が大切な役割を担っているという事は、良く知られて、普通に考えられる事ですが、そのために現場で日々苦労されている介護の職員の方のモチベーションを維持して、それが介護の質に繋がっていくと、介護の質を保障するという事になるのかなと思うんですけども、そこで以下の３点。これについて、町長に質問を致します。

一つ目、まず基本情報ですけれども、現在における各介護施設の定員に対する利用者の割合はどうなっているかという事についてお聞きしたいと思います。また合わせて利用希望者の待機状況ですね、これがどうなっているかという事も同様にお願します。で、参考までに施設の公式ホームページを見たんですけれども、例えば和風園については、今待機者１２名というふうに昨日段階では出ていました。これについてはただ、いつ時点のものなのかということが、ちょっとこれでは良く分かりませんでした。それから旭寿園については、７月１９日現在という標記があって、１７名待機というふうになっていました。ただ、７月という事なので、これが最新の情報なのかっていう事が、ちょっとこれだけでは、はっきりしないんですけれども、改めてこの事についてお聞きしたいと思います。

二つ目、介護の現場は沼田町に限らず、介護の現場に限らず、いろんな職場がそうだと思いますが今、人手不足に悩まされていると思います。で、端的に沼田町において、介護職員確保するために、これまでどのように取り組んで来たのか、また、今後はどのよう取り組んでいくのか。それを継続していくのか、新た事に取り組むのかっていうような、どのような事をお考えをお聞かせ下さい。

三点目、介護の職場に来る人っていうのは、とりわけ専門的な意識も持ちあわせているでしょうし、非常に高い、働く人として高い意識を持っている人だというふ

うに思います。それが、残念ながら志半ばで、その職場から離れていくというような状況もあるのではないかなというふうに思いますけれども、沼田町で働き続けてもらうためにどのような取り組みをすれば良いのかと、今後そのような事も何か考えているのであれば、お聞きしたいと思います。以上よろしくお願いします。
○議長（小峯聡議長）横山町長。
○町長（横山茂町長）はい、まず１点目、介護施設のその定員、利用者の割合、或いは待機状況ですが、今ほどあったように直近の数字とはちょっと違っているようなのであれですけど、まず和風園については１００名の定員で１００名であります。町内７８名の方、それから町外が２２名の方です。実際には１２月１日付けでは１８名の待機がおられるというふうに聞いてます。それから旭寿園ですが、８０に対して現在６９名という事で、町内３２名、それから町外が３７名という状況です。待機については１５名の状況となっています。で、介護職員の確保のために取り組んだこと、それから今後の取り組みについての内容ですが、今までに当然ながら介護福祉学校への定期訪問ですとか、それから昨年からも進めております職場の説明会、合同企業説明会ですとか職場説明への参加。それと高校生等のインターンシップの定期受入れ。あと町内において職員のプロジェクトによって協議検討しておりますが、職場環境の改善策ですとか、或いは外国人材の雇用の検討。それと、今後の確保に向けた就職支援金制度などについて今、現在職員の中で検討しているところであります。また、各種イベント時に職員募集チラシの配布活動ですとか、それから今年新たに沼田町の無料職業紹介所の開設をしておりますので、そこへの登録。或いはハローワークへの登録をしているところです。あと２８年度から、介護人材バンク事業という事で、介護初任者研修費の助成というものも取り組んできているところであります。これまでに１８名の方が利用を頂いて、１０名の方が町内の介護施設で現在も勤務して頂いているところです。このような、様々な取り組みを実施してきたところでありますが、やはり人材不足については、この介護だけではありませんけども非常に大きな問題となっているところであります。特に介護職の人材不足については、施設の運営に大きな影響を生じるという状況から、今後の取り組みとしてはですね、今検討していると先ほど申しましたように、新規採用者への支援、就職支援金などの制度、或いは外国人労働者の採用を視野に入れて検討を今、進めている状況であります。今後、働き続けてもらうための対策という事で、やはり仕事につきやすい職種である一方、介護職として続かない。いわゆる、３Ｋと言われるきつい、汚い、給料が安いと言われているようですが、どうしてもその勤務条件、或いは給与が有利な所へ流れる傾向があるようですので、今後そのモチベーションを上げるためにですね、職員に出来る限り長く勤めて頂くために、意識改革或いは業務改革、そして環境改革を図る、モチベーションアップを図るためにです

ね、アドバイザーの派遣についても考えていきたいという事で、この予算については別途補正予算の方で提案をさせて頂いているところでありますので、どうぞよろしくお願いをしたいというふうに思います。以上です。
○議長（小峯聡議長）篠原議員。
○５番（篠原暁議員）１番目の事については良いんですけれども、ただ、今町長の方からもありましたように、結構こういう情報ってやっぱり、ホームページを見て色々考えるという方も多いと思います。現代においてはホームページの情報をきちっと正確で色々知りたいことが端的に知れる。充実しているっていう。やっぱり大事かなと思いますので、出来るだけこまめに更新などをやって頂ければというふうに思います。

２番目の人手不足の事についてですけれども、非常にたくさん色々取り組み、又は今後も考えられている事なんですが、その中で一つ、外国人材の活用についてという事がありましたので、私もちょっとそういう事を考えていないんでしょうかという事を聞こうと思っていたんですけれども、それでその点について、もうちょっと重ねてお聞きしたいんですけども、介護の現場で外国人材を活用している例として、まあこれも色々情報を検索すると、北海道でも東川町などで非常に先進的に取り組んでいるというのがすぐに見つかるんですけれども、その他日本全国各地でいろんな取り組みがあるようですけれども、介護の職場で働くことを目指している外国人の留学生ですね、その方々が専門学校で学ぶのに、介護施設、将来専門的な事を学んだ後、働こうと希望する介護施設を通じて奨学金が受け取れると、そういう補助があると、その奨学金の一部には国の助成も含まれるというような事があるようですけれども、今その外国人材当然これから考えていかなければならないのかなというふうに思ってるんですけども、沼田町でもそういう制度を何か利用するという事は考えているのかという事。

それから、３点目の所ですけれども、色々モチベーションをアップさせるために取り組みを行っていくという事だったんですけれども、一般的に考えて介護の職場で長く働いて頂くっていうことは、若い方が職についても当然、いずれ結婚して、沼田町で相手を見つけてくれればもっと良いんですけれども、やがては子育てに入るという事が想定されるわけですけども、おそらくそのタイミングで職場から離れてしまうっていう事も結果的にはあるのかなというふうに思うんですけども、そこでですね、沼田町、特に横山町長が、子育て支援日本一を目指すというような事もおっしゃっていますので、そういう子育て世代に係ってきた介護職員の方に対する支援策を、特に手厚くすると。そういう事もあれば、沼田で介護の仕事をしてみたいという方も増えたり、実際に結婚して子どもが出来たという時にも辞めずに済むのかなというようなふうにも思うんですけども、何かそのようなお考えが無いでし

ょうかという事でお聞きします。
○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。
○町長（横山茂町長）はい、まず１点目の外国人。えーと、具体的に今検討は進めていますが、この後雇用を図るかっていうのは、ちょっと今、今の段階ではまだ確定はしていない状況です。で、留学生の奨学金制度。国の支援もあるという話しですが、これについては今、聞く限りは交付税で対応されるというようでありますので、この事も踏まえて検討していきたいというふうに思います。
それから子育て中の介護職員の方々への今後の支援策という事で、いかに継続して仕事をしてもらかという視点から、先ほども言うように子育て支援ばかりでは無いのかもしれませんが、就職支援金というものを含めてですね、改めて新年度に向けて提案を出来ればという、そんな思いでおりますので詳細については又、改めて説明をさせて頂きたいというふうに思います。
○議長（小峯聡議長）よろしいですか。はい。
○５番（篠原暁議員）概ね良いお答えを頂いたのかなというふうに思います。最後の、介護の人材に対するその支援ですね。その部分で、もしかすると多くの労働者がいる中で、介護職員だけ優遇するのはどうなんだろうかという議論も出てくることが懸念されないわけでも無いんですけれども、今町長の方からですね、就職支援金なども含めた、そういう手当をしていくという答えを頂きましたので、私も介護職員が不足するという事は、自分の問題として将来ですね、自分が介護を受ける立場になった時に十分なサービスが受けられないという事にも繋がっていく事を考えれば、介護職員だけ優遇するというような事は無いのかなと、自分にそれは返ってくるのかなというふうに思ってますので、是非今おっしゃったとおり進めて頂ければというふうに思いますので、以上でこの件についての質問を終わります。
○議長（小峯聡議長）それでは続いて、沼田町から若者の胃がんをなくしてはどうかについて質問して下さい。
○５番（篠原暁議員）はい議長。最初ありましたように、この質問に関してはスクリーンを使いながらですね、質問をさせて頂きたいと思います。
（篠原議員、投影機で資料をスクリーンに映す。傍聴者には別に、スクリーンと同じ資料があらかじめ入場時に配布されている）
これは、お手元に届いていると思います配布資料と、ほぼ連動しているものです。沼田町から若者の胃がんをなくしてはどうかという事について質問を致します。こちら今映しているのは、１１月１３日付けで「ピロリ菌の検査の除菌若いうちから」という見出しで北海道新聞に掲載された記事をもとにしたものなんですけれども、ちょっと暗くて見ずらいかと思いますので、お手元の配布資料と合わせてご覧を頂ければと思いますけれども、この最初の表はピロリ菌に感染してから胃がんに至る

までのそういう経過を示していますけれども、ご承知の方も多いかと思いますけれども胃がんの原因の９９％はピロリ菌への感染によるというふうにされています。

そのピロリ菌の感染の後、慢性胃炎それから萎縮性胃炎と進んで最後、胃がんに至るまでの間、１０年から３０年ほどの期間ありますけれども、ほとんど自覚症状が無いまま、この段階まで進んでいくという事が言われています。で、次の頁ですけれども、グラフがありますけれども、こちらの吹き出しが付いている胃がんが上位に入っていますという事になっていますけども、スクリーンではカラーでお示ししていますけども、この青い部分ですね、これが男性における胃がんの割合ということなんですけれども、これで分かるように女性ではですね、乳がん等が多いんですけれども、男性の場合は特に胃がんの罹る率が他のがんの中では特に胃がんが多いという事がこれで分かります。

それから、もう一つのグラフは、これは１０万人当たりの中で、その癌に罹る割合の年ごとの変化を表していますけれども、こちらが１９７５年から始まって２０１５年まで行ってますけれども、これも男性の場合はですね、これ青が胃がんで黄色が肺がんなんですけれども、年によってだんだんだんだんやはり癌に罹る率が増えているという事が分かります。女性は、ほぼ横ばいなんですけれども、特に男性の場合ではそういうふうに胃癌に罹る率は年々上昇しているという事が分かります。そこで言われているのが、若いうちに胃がんの原因になるピロリ菌ですね、これを感染しているかという事を検査して、もし陽性である場合には除菌という事を行なえば、ほぼ確実に癌に罹ることを抑えることが出来るという研究結果があって、現在も多くの自治体で、その取り組みが行われてきているんですけれども、これは同じ１１月１３日付けの北海道新聞に出ている表ですけれども、道内で中学生向けにピロリ菌の検査事業を行っている市町村についてということですけれども、ここで実施がまだ全市町村の３割程度ですというような事が言われているんですが、逆に私はこれを見た時に、もう既にこれだけ多くの自治体で取り組まれているんだなという事を実は初めて知って、ちょっと驚いたようなことがある訳なんですけれども北海道内で行っている市町村。特に、空知管内では、もう少しアップしますけども、由仁町と栗山町。南の方ですよね、この二つの町だけで北空知はまだ、どこも実施していないわけですけれども、今ここの記事で特に注目されていたのは、登別市と室蘭市ですね。そこで中学校２年生を対象にピロリ菌の検査と除菌を行う支援事業を行っていると、受診率が９５．９％になったという事で紹介をされていました。中学生におけるピロリ菌の除菌については、一部医療関係者の中からは、妥当性がないというような意見もあるようなんですけれども、これも同じ新聞報道の中で、佐賀県においては県全体で中学生のピロリ菌検査と除菌に取り組んでいるという事が紹介されています。そこで、高校生までの医療費無料化に取り組んで、子育て環

境日本一を目指しているという横山町政において、国や道に先駆けて中学生のピロリ菌検査と除菌に取り組むっていうことは又一つ大きな意義があると思うんですけれども、沼田町で是非これを実施して頂きたいというふうに思いますので、以下の点について３点質問を致します。

一つ目、中学生のピロリ菌検査と除菌の有効性について、町としてどのように評価をするでしょうかと。

二つ目、中学生でピロリ菌検査と除菌が胃がんの発症を抑えるのに有効であるというふうに評価をした場合、これらを実施するという考えがあるでしょうか。

三つ目は、その考え次第なんですけれども、実施しないとすれば、その理由は何でしょうかという事でお伺いしたいと思います。すいません照明お願いします。(場内の照明を点ける)

○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。

○町長（横山茂町長）まず、ピロリ菌検査についてでありますが、私も昔ねピロリ菌は除菌をしておりましたんであれなんですけども、ただ中学生に実施する事から、他の事例等確認した中では、その薬によって副作用による自己中断等の課題があるというふうに聞いてます。成人後にピロリ菌を除菌する場合の支障になっているようでもあるという事で、正確には薬剤耐性菌というものに変わるというふうに聞いてます。いわゆる何かというと、適正に薬を服用しないと薬が効かない菌に変化するものであるという事で、この件については日本消化器病学会で、この検査を推奨する医師はおられるが、成長発達中の中学生ですね、実施するため現状では安全性や効果が確立されていないようで、これらが証明されればですね、有効と判断出来るようであれば本町も考えなければいけないかなというふうに思っているところであります。そういう状況ですので、国が有効と判断していない状況でありますのでね、道内で実施している市町村については、近くに推奨する医師と医療機関がある所が大半であろうという事で、北空知１市４町には近くに協力頂ける医療機関が無い。そんな状況であるという事をご理解頂ければというふうに思います。以上です。

○議長（小峯聡議長）篠原議員。

○５番（篠原暁議員）当然私も最初に申し上げたように、この問題について賛否両論別れた議論があるという事は私も承知しています。で、おそらくですね、町長も今おっしゃっていた部分もありますけれども、多くの議論がされている中で、未成年に実施しないとする根拠になっているのが、日本小児栄養消化器肝臓学会という所が示しているガイドラインがあって、除菌による胃がんの予防率が４０歳代でも９０％。４０歳代未満ではほぼ１００％というデータがあるという事を基にして、成人でも問題無いんであれば、あえて中学生に又は未成年者に行うこともないかというような、ある意味消極的な論拠なのかなというふうに受け止めたんですけれど

も、今ですね色々見ていても、例えば未成年において除菌を行ったと、実際にそういう制度で行っている自治体がたくさんあると紹介しましたけども、今町長のお答えでは近くに協力できる医療機関があればというような条件がつくようですけれども、実際に未成年において、その除菌を行った時に何か事故があったというような例は、私の探した限りでは無かったようなんですけれども、未成年にこのピロリ菌の除菌を行わないという事に、その何か危険性、安全がまだ確立されていないとおっしゃいましたけども、そういう実例が何かあるのかという事、もし抑えていらっしゃればお聞きしたいと思います。

○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。

○町長（横山茂町長）事例があるのかどうかという話しですが、先ほど言うように適正にね、薬を服用しない事によって後々薬が効かない。そういう可能性があるという話しを聞いておりますので、今の状況では安全性。先ほどから言うように安全性や効果がね、確立されていない時に我々がどんどん受けて下さいというのは如何なものかと私は思いますが。

○議長（小峯聡議長）篠原議員。

○５番（篠原暁議員）安全性が確立されているのか、いないのかという議論は平行線。堂々巡りになるのかなというふうに思いますけれども、一つの指針として、この今配布した資料の最後の方にも書いてあったんですけれども、日本ヘリコバクター学会という所があって、ヘリコバクターというのはピロリ菌の学名のことなんですけれども、その理事長の加藤医師がコメントしていまして、小学生だとまだ実施は難しいけれども高校になると進路がバラバラになるので、中学生で実施する事が最適だというふうに言われていますというふうに専門家も言っているので、安全性の事が確立されればという事もありましたけれども、是非ですね多くの専門家はその事を有効性も指摘してるという事をもう一度改めて受け止めて頂きたいんですけれども如何でしょうか。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）とかく、その推奨する医師も当然中にはいるでしょうし、かといって一方でまだ確立されていないという見解もある。その段階で、行政が動くというのは如何なものかなと私は思いますし、いずれにしてもこの近くで推奨頂ける医師あるいは医療機関があることでなければ、なかなか、わざわざ札幌まで行ってきなさいという話しにもなりませんし、そういう状況も加味しながら検討していきたいというふうに思います。

○５番（篠原暁議員）全くやらないという事では、そういう可能性が無いという事ではないというふうに受け止めて終わりたいと思います。

○議長（小峯聡議長）続いて６番、伊藤議員。人口減少問題について質問して下さ

い。

○６番（伊藤淳議員）６番伊藤です。よろしくお願い致します。私からは、人口減少問題について質問をさせて頂きます。現在、沼田町の人口ですけれども約１３年間で千人ほどの人口が減少している。１１月末日においては、３，０１３人という事でありますけれども、今正にですね３千人を切るというような状況であろうかと思います。町の政策の中では、移住定住の促進、それから子育て支援、福祉や教育の充実などですね、人口減少を抑制するために多様な事業ですとか住民サービスを展開されておりますし、その成果もあるものと考えてございます。

この３千人をですね、是が非でも守って行くんだというような町民へのアピールでございますけども、是非町長にして頂きたいというふうに思ってございます。過去に、西田町政の中でも人口４千人復活プロジェクトという事で、当時の西田町長はじめですね、行政の方々はネームにそういった４千人というような数字を入れながらですね、やられていた。それから町民の方もですね、お互いに危機感を共有して取り組んでいたような気がしてございます。

その後、金平町政時にはですね、今いる住民を大切にするという公約からですね、そういった理念はあったもののプロジェクトととしては継続されなかったかなというふうに認識をしてございます。横山町長は、夢と希望と誇りの持てる町づくりを目標とされて、次世代の子ども達への橋渡しを公約に掲げられております。昔に戻ってですね同じ事をしてほしいという事ではなくですね、名称ですとか目標のそういったものを持った中で取り組んで頂きたいというふうに思ってございます。人口減少は避けられませんけれども、子ども達や町民に、人口３千人を守って行きたい強いメッセージをですね発信して頂き、町一丸で問題意識の統一を図ることが重要だと考えております。また、合わせてですけれども、６次の総合計画ですとか、第２次の総合戦略においても、客観的な推計ですとかデータを示す一方で、またそういった３千人なら３千人ですけれども、そういった目標を意識しながら基本計画に盛り込んで行けるよう検証内容などをですね、抱える反省なども町民と共有しながら共通認識とすることが重要ではないかなというふうに思ってございますので、町長の考えをお聞きしたいというふうに思ってございます。

次にですけれども、６月の定例会からですね、私の方では農業からの産業創出という事で、雇用対策をして頂きたいということで質問させて頂きましたけれども、人口減少対策は雇用対策と直結すると、そういう私の信念でございます。現在町としても、雇用対策、企業誘致等行ってますけれども、やはり将来に希望の持てる働く場所の確保が急務だと思ってございます。道はですね、北海道食料備蓄構想を平成２４年３月に策定され、今年度においても実現に向けた主な取り組みとして、国の農業政策に関する提案書の中で、北海道食料備蓄基地構想の実現に向けた政策の

推進として国に要望書を提出されてございます。沼田町においては、平成１４年に輝け雪の町宣言が行われ、平成２５年に国営による大規模長期食糧備蓄基地推進協議会が解散され、流通や商工業者などによる民間貯蔵を目的とした食糧流通備蓄推進協議会が新たに設立されてございます。今年の１月にもシンポジウムなど行われてございましたけれども、人口減少対策には雇用の充実が大切であり食糧の雪貯蔵に関する事や、雪山センターのような雪を保存して活用できるノウハウ、そういったものの技術を活かす。長年積み上げてきた経験を活かす。それは沼田町だから出来る事だと、内外に示す事が大事なんだろうなというふうに思ってございます。地域に根差した、細やかな政策も勿論必要ではありますけれども、以前からある備蓄構想等の思い切った政策、そういったものが実現が必要だと私は思ってございます。この備蓄構想につきましては、町民の中ではもう過去のものだというふうに思っているかもしれませんけれども、その上でですね全体から見た沼田町の立ち位置。それから協議会での中身ですとか、町長のお考えあればお聞かせ願いたいと思いますので、よろしくお願い致します。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）３，０１３人の人口、間もなく３千人をというお話しを聞くたびに、背が縮まるような、そんな思いでおります。当然私も、この事に関してはね、早くから気を引き締めて取り組んで行こうという、そんな思いでいますのでね、今ご意見のあった事については、とかく私の出来る限りリーダーシップを取って、対応していきたいというふうに思ってます。ただ、３千人復活プロジェクトというようなものは、名称はちょっと使う気はございませんが、いずれにしても沼田町総合戦略で策定をしておりました来年の３月末の時点の人口設定は、３，２１７名でした。ですので現状としては、大分下がってしまう。そんな状況であるところですが、様々な施策を展開をして平成２９年それから昨年の３０年、２年連続の社会増と出来たところでもございます。ただ一方で、国立社会保障・人口問題研究所の試算では、令和２年度に２，７８６人という非常に厳しい推計も出ているのは事実でありまして、とかくその状況に近づけるのではなくてですね、言われるように何とか３千人を切らないように、進めていきたいなというふうに思ってます。特に一昨日、中学３年生の方と懇談をさせてもらってですね、いろんな町の財産。残すべきだという意見をもらった中に、お一人から何とかこの人口３千人を確保してくれという、そんな言葉も中学生からも頂きました。非常に感極まるそんな思いでいたので、何としてでもですね、みんなの力を合わせて協力頂いて確保できるようにしていきたいなというのが私の願いであります。そのような事を視野に入れながらですね、第６次の総合計画において、それぞれ重点戦略というものを位置づけをしてですね、一つには持続可能プロジェクトという事で、とかく働く場を作らなければ絶

対次に繋がらない。そんな事を視野に、企業誘致或いは雇用の場の確保に向けて取り組んでいこうというそういう思いでプロジェクトを展開しているとこです。併せて、伊藤議員からもありました、我が町の農産物を貯蔵する食料貯蓄流通基地構想。これについては、当然自分も長年担当させて頂いておりますし、これを実現できるそのために、そのためにはやはり、農産物の加工産業などの誘致をやはり先に進めていかなければならないだろうという思いでいるところですし、これからの農業を考えると、やはり世界というものも視野に入れながらですね、考えていくことを想定して、やはり備蓄米基地なるものも視野に入れて考えて行くべきかなというふうに思ってます。

また、宣言２では世界に発信プロジェクトという事で、関係人口、交流人口の拡大を是が非でも進めてですね、人を呼び込み、地域にお金が回る。そんな環境を作る。いわゆる豊かな町を作り上げることを実現していきたいというそんな思いでいます。今後の事を考えますと、一つには働く場を作ること。そして、外貨を稼ぐこと。更には、人財の誘致を進めることを今後のまちづくりの持続可能な環境を作るための絶対条件だというふうに捉えてですね、更なる人口維持、出来れば拡大を出来るような、そんな取り組みを進めていく所存でありますので、どうか皆様方のご協力をお願いしたいというふうに思います。

現在の所、まだ未確定ですが、今仮です。仮称ですが、沼田町を元気にする戦略、関係人口拡大緊急プロジェクトなるものをまとめてですね、町民の意識或いは機運を高めて、その環境の中で体制が整ったものからですね、事業をそれぞれ展開をしていきたいというふうに思っておりますので、いずれにしてもこの人口減少時代を生き抜く強い町づくりを目指して頑張っていきたいというふうに思います。以上です。

○議長（小峯聡議長）伊藤議員。

○６番（伊藤淳議員）人口問題はですね、町の財政ですとか政策、住民の生活の根幹であると考えてございます。このままの勢いで、人口減少が続いていった時に町はどうなってしまうのか、過去の検証からですね、自然増減の他に理由として現状の成果ですとか反省点、それから今後の行政の取り組みをですね、分かりやすく住民に説明して、この問題に対して共通の認識を持つことが大事だなというふうに思っているわけですけども、何故私がそこにこだわるかって言いますと、やっぱり子育て支援ですとか、老後の社会福祉の充実、それから移住定住の促進などに力を入れている沼田町。そこの住民がですね、いろんな場所、人との出会いの中で、沼田町を宣伝してもらえる。まあ、住んで良いところだよと言ってもらえるようなね、土壌作りが大事なんだろうなというふうに思ってございます。町長や職員の皆さん。それから我々議員もですね、行政に携わる者の強い意志ですとか、目標を町民に示

しながらですね、関係組織も含めた、町長のお言葉を借りれば、オール沼田でこの問題に取り組む姿勢を町長に示して頂きたいなというふうに思ってございます。

また一方、備蓄基地構想ですけれども平成８年にファクトリーが建設されて以来ですね、農家の我々も本当に素晴らしい施設があると感謝しているところであります。備蓄構想の協議会が当初立ち上げられた頃はですね、町民の中でも構想に向けた機運も高まっていたというような思いもしているところでありますし、私自身も沼田町に備蓄基地が出来るかもしれないなというような気持でも一町民としていたわけであります。時間も経過して状況は変わっているわけでありますけども、現在は気候変動により、以前にもまして食糧生産基地としての北海道の役割も大きくなってございます。全国各地で大きな災害なども、被害も数多く見受けられるようになった。そういった甚大な被害を受ける地域もあるわけですけども、また先ほど世界の情勢ということで町長もお話し頂きましたけども、国際情勢の中ではＴＰＰですとか、ＦＴＡ，ＥＰＡなどですね、農畜産物の完全撤廃に向けた動きですとか、２国間での貿易協定による様々な懸念が多いと、また国内における米の消費量は減る一方でありますけれども、国は米の自給バランスを取るために飼料米生産に向けた水田の利活用も押し進めている。今まさにですね冷涼な土地柄の北海道で、もっと言えば雪利用に取り組んでいる沼田町でですね、環境に配慮した食糧備蓄ですとか、飼料米を全道全国から集めて、家畜飼料も含めてですね、確保しながら平時の備蓄調整それから有事の際の対応をする施設として国内の食糧自給率が低迷している中でですね、国の食糧安全保障に繋がるように取り組んでいければ、本当に良いなというふうに思っているわけでございます。

この構想を現実化するのは本当に、とても困難な大変な事だと私も認識していますけれども、人口減少対策として安定した雇用の場としてまた、関連の企業の進出ですとか人や物の移動によりですね、交流人口の拡大にも繋がるものだというように思ってございます。地元農業ですとか、商工業に対する発展的影響は、また計り知れないものだろうというふうに考えております。先ほど町長から加工施設を優先的にというようなお話しもございましたけれども、プロジェクトは壮大でありますけれども、これが出来るのは沼田であるというふうに信じておりますし町長にはですね、これからその思い切った政策をですね、今後煮詰めて頂きながらですね、道や国に働きかけて頂きたいというふうに思いますけれども、その点について何かあればお伺いしたいというふうに思もってございます。

○議長（小峯聡議長）横山町長。

○町長（横山茂町長）まず、いずれにしてもですね、実現をするためには行政だけではなかなか出来ない。そんな事を考えると、関係機関の皆様方に協力を頂いてオール沼田で取り組める、そんな環境に是非ともご協力を頂きたいと思います。で、

備蓄基地構想に関連する事ですが、先ほどもその関連する加工施設、加工産業をまずは誘致をしたいというふうに思ってます。実際に動いているところでもありまして、規模は別にしてですね、地域の水産物、近隣の水産物も含めた農林水産物の加工販売ができるようなそんな企業を実現、立地させられるように早期にですね、させられるようなそんな取り組みを進めていきたいというのがまず、私の思いであります。当然ながら、その様々な視点を含めて各自治体だけでの取り組みが実現できるかというと、やはりなかなか難しい部分もありますので、そういう部分では北海道或いは国に対する要請活動についても、いわゆる国内だけでは無くてですね世界を視野に入れた中でのそういう動きも含めて検討していきたいなというふうに思ってますので、是非ともご協力をお願いしたいというふうに思います。

○議長（小峯聡議長）伊藤議員。

○６番（伊藤淳議員）まあ色々な難しい場面はあろうかと思いますけれども、人口問題に対策にしましても、それから雇用対策に致しましても、行政からですね町民に対して機運を盛り上げて頂けるような発信をして頂きながら進めて頂きたいと思ってございますので、よろしくお願いします。以上で終わります。

○議長（小峯聡議長）続いて８番、上野議員。化石の研究体制を強化してはについて質問して下さい。

○８番（上野敏夫議員）８番、上野敏夫です。今回教育長にお聞きしたいという事で、質問書を渡っていると思いますけれども、沼田の化石研究。とっても素晴らしい化石が沼田に出るという事、その事の体制を強化という事でご質問させて頂きますので教育長よろしくお願いします。

昭和６０年、ヌマタネズミイルカが発見され、沼田町は化石の町として今日まで来ております。これも先代の山下茂先生が沼田に来られて、いろんな事を活躍されて土台を作って下さった、その山下先生の力もあると私は思っております。また、そのことにより昨年、ヌマタネズミイルカが北海道指定天然記念物となり、さらに今年の春、新属新種のヌマタナガスクジラと命名され、などの今までの研究が認められた結果だと思っております。更に、多くの化石ファンも沼田町に訪れ、たくさんの観光客、更にその専門家が沼田に訪れて、沼田町を初めて来られて方もいると思います。その中でいろんな化石の体験、更にその入館者が右肩上がりで毎年沼田に来る方が増えていることも事実だと思います。本当に素晴らしい沼田の資源だと思っております。

だけどしかし、この３０年の研究体制は継続的に化石を専門とする職員がいたのですけども、山下先生をはじめね、ところが現在は学芸員資格を持つ職員が一人で研究を行っている実態です。このままでは沼田町にとっても、後退して下降線を辿ってしまうと大変な事になると思います。是非、化石の研究は沼田町にとっても大

切なものと考え、化石の調査更に研究、レプリカ等、大切なものだと考えると、研究は複数で行い、さらに外部団体、沼田町外のいろんな研究されている、北海道に本当に化石が豊富に出ておりますので、そういう外部団体との体制を整えながら、レプリカ作業をするべきだと思っております。更にはそのレプリカについてなんですけどね、今町民会館でレプリカの作成をやっておりますけど、学芸員の研究は元のレプリカ工房って元の所ね、そこで行っておるというのが実態で、研究する人達を考えると１ヶ所で行えて、１ヶ所でレプリカを作れるという事は、とても大事な事だと思っております。この事について、教育長の熱意というか、教育長本当の沼田の化石についての思い、必要性、現在の人数ではどうなのか、その辺も教育長の考えをお聞かせ頂きたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小峯聡議長）はい、教育長。

○教育長（吉田憲司教育長）沼田町は、平成４年から教育委員会に学芸員を配置致しまして、化石の調査研究及びレプリカの作成等の業務を行ってまいりました。これまで学芸員は５名の方々に引き継ぎをして頂きながら、学芸員の配置に当たっては、北海道教育大学の木村まさいち名誉教授の力お借り致しまして、これまで配置がなされて参りました。現在も木村名誉教授につきましては、本町の化石館の名誉館長としてお引き受け頂きご指導を頂いてるところであります。

さて現在の化石業務を担当している職員につきましては、主に学芸員１名と施設グループ職員の１名の合計２名の体制で担当しております。これまで、化石を専門とする学芸員が永年配置してきましたが、現在の学芸員は、これまでの学芸員のように化石の専門性からすると、違う分野を勉強してきた者でありますけれども、今まで通りとはいかない部分はありますけれども分からない部分につきましては、木村名誉教授と、以前学芸員として勤務していました田中嘉寛氏を、現在は大阪市の自然史博物館の学芸員でありますけれども、その田中さんを沼田町の化石館の特別学芸員としてお引き受けして頂きまして、現在も引き続き沼田の化石の研究、或いはイベント開催等につきまして、アドバイスを頂いているところでございます。

また、化石発掘を含め、職員だけでは手が足りない業務につきましては、町外にいる研究者等にご協力を頂きながら現在も進めておりますし、これからも進めたいというふうに考えてございます。

化石調査研究を複数で行えという事でありますけども、近年化石を研究する学生が少なくなり、学芸員の確保が非常に厳しい状況だという事で、木村名誉教授から聞いておりますけれども、従いましてこれからも外部からの協力を頂きながら、現在いる学芸員を育てていきたいというふうに考えてございます。

作業場所につきましては、レプリカ工房の作業環境の悪化により、一時的に現在の町民会館の集会室を活用させて頂いておりますけれども、議員が言われる通り、

このままでは研究を進めるには十分ではないというふうに思っておりますので、現在レプリカ工房をはじめ、公共施設の在り方を検討するプロジェクトチームで老朽化となった施設のあり方を検討中でありますので、その結果が出ましたらまた、ご報告させて頂きたいと思います。

○議長（小峯聡議長）はい、上野議員。

○８番（上野敏夫議員）本当に北空知の化石が出る場所、深川、滝川、沼田、この３つが今のところ化石が出て、素晴らしい地域にいながらであるという事と、それと北海道で多くの化石だとか、いろいろなクジラとか、いろんなものが発掘されるという事は、約２千年前以降、北海道は小さな島が集まり、しだいに北海道が形成されたと雑誌に書いておりました。この事からも沼田は海にいた化石、クジラいろんなものが発掘される要因だと私、その雑誌を見て感じたんですけどね、この事からも本当に沼田にいろんな化石があるっていう事は、過去に島国が１つになって北海道が形成されたという事を考えると、それを今沼田にいる子ども達に、とっても大事な事だということを教育の中でも教えていくべきではないかなと私思っております。その事によって、教える側にとっても博物館というかね、化石だ恐竜だいろんな物を博物館を建てる、というのはその事によって沼田の子どもが、本当に何人かが興味を持った時に、それこそ優秀な学者になる可能性も出てくると思いますので、是非博物館を作ったり、そこでは学芸員が腰を据えて専門の人がそこに研究される。そういう施設を作り、更にそれを教育に関係していろんな事に普及して、それぞれの体制を整えることが私は必要でないかなと思っております。是非沼田の教育長として本当に化石、こんな素晴らしいものを、太古の生命、これで昔からの財産を贈られた物だと考えると、沼田の次の世代に伝える必要もあると私思っております。これも、今の子ども達にその体験、教育、博物館などを作って、子ども達にレプリカを作ったり、沼田の歴史を教えたり本当に子ども達にとっても将来沼田の事を研究する人が出るような教育環境を整えるべきだと思いますが、教育長の博物館とか、その子ども達の化石についての教育的な伝え方っていうのは何かあればお聞かせ下さい。

○議長（小峯聡議長）はい、吉田教育長。

○教育長（吉田憲司教育長）地元にある資源でありますので、地元の小学生はもとより、子ども達に沼田の化石をＰＲするっていう事は大事なことでありますし、また毎年そうやって化石のイベントや何かに来られる子ども達もたくさんおりますので、そういう子ども達から将来的には、そうゆうような専門性のある学芸員になる子供も出てくるのかなっていうふうな事で期待しているところであります。

今言われました、博物館構想ですけれども、なかなかそういう部分というのは国立だとか道立だとか、過去にはそういうようなことで、いろいろお願いにあがった

こともあったかと思いますけれども、なかなかそういう部分については非常に難しい事ではありますけれども、これから化石を研究する中で、そういった事に沼田がなってけるようになったら良いなというような事は思っております。そんな事で、そういう機会がありましたら、また国、道に対して要請をしたいというふうに考えております。

○議長（小峯聡議長）はい、それでは続いて、町民体育祭の方向の考えを伺いたいについて質問して下さい。

○８番（上野敏夫議員）８番上野です。次に沼田の町民体育祭、今年も時間短縮されながら終わった、その事については今後のいろんな行政区長会議をやった中で、いろんな事をお聞きしておりますけれど、今後の方向ですね、町民体育祭。町民にとってそのスポーツ、運動というのはわかる、その事について教育長にお聞きしたいと思いますので、教育長の立場でお答えお願い致します。

今年も本当に、少なからず８チームという一応チームで対抗の体育祭が行われたわけですけど、依然参加者が少なく、各種目の今年でさえ各種目の選手を集めるのにも本当に体育役員の方も相当苦労されて、一人で今年でさえ何回も出ているチームも私聞いております。

その理由として、全部か全部ではないですけど、走ることが苦手だとか、怪我することが心配だとか、いろんな町民の不安があることによって参加が出来ないという気持ちも分かって頂きたいと思います。本当にこのままでは体育祭を続けるっていう事は本当にこのままでは難しいんではないかなと思っておりますので、いろんな、教育委員だとか、体育指導委員とか、体育祭の準備、片づけ等、いろんな事で毎年苦労されているのは分かるんですけども、町民が参加しづらい体育祭。これはちょっと方向を変えるべきではないかなという気持ちでおります。

例えばですよ、８チームが無理であれば、赤白に分かれるくらいの、東部、西部っていう二つに分かれて紅白にしてね、体育祭を行えれれば、そんなに難しくないし出来るんでないかなと私思っております。更に、内容なんですけどね、本当に私ここに書いてあるように例えばですね「町民交流まつり」っていう感覚でね、内容を変えて町民のニーズというか、言葉を変えることによって、それなら行ってみようというような、そういう内容も変えて方向も変えて、そして町民が楽しめる、沼田町「町民宝くじ」本当に他の町がやってないような、町民宝くじを作ったりして、その事によって町民が参加すると、超豪華景品が当たるような内容にするだとか、沼田の子ども、乳母車を押してるお母さんからお年寄りから、その場所に集まって、そしてお年寄りが、どこどこさんのお孫さんですね、子供さん赤ちゃんと手を触れたりする内容の行事、イベント。この事によって楽しみが出ることによって町民が行ってみようというような、その内容をね本当に町民目線の本当にレベルを下げた、

走らなくてもね、参加しやすいような内容を変えてね、そういう行事をね考えてみるようにしたら良いと思うんですけど、教育長の今までの経緯とこれからの方向ですね。町民体育祭のそれをちょっとお聞かせ下さい。

○議長（小峯聡議長）はい、吉田教育長。

○教育長（吉田憲司教育長）本町の町民体育祭の歴史につきましては、昭和２５年から始まった市街地と一部農村地域を５つに分けて、「沼田連合運動会」と称する大会が発端でありまして、その後、昭和４９年に全町民が参加する現在の「町民体育祭」に変わり、本年で大会が４６回目でありました。町民連合運動会から考えますと、約７０年前から続く伝統行事であります。

町民体育祭が始まった当時は、沼田町史によれば、全町民の約半数が会場に参集し、各チームの応援合戦も華々しく、沼田小学校グランドに集合して、旧沼田中学校グランドまで街頭行進を行ったようであります。当時、朝８時に集合して、１６時から閉会式という事で本当に、競技種目も競技人口も多かったようでございます。

それから数十年経過を致しまして、人口の減少と高齢化により、競技種目も減らし、参加人数も考慮致しまして、人集めに各組の役員が負担とならないように検討してきた経過がございます。

７月２９日に開催致しました今年の町民体育祭の反省会で、各組の意向を確認したところ、前向きに参加の意向を示したチームが、８チーム中６チームございました。町民体育祭をやめて新たな行事を考えたら良いのではないかというご質問でありますけれども、昭和６０年６月にスポーツの町宣言を制定致しました本町にとりまして、現在全町民が集まれるスポーツイベントというのは、この町民体育祭が唯一でございます。今年の大会を見ますと、最終的には綱引きですとか、組別リレーなど、やはり競技性の強い種目については、見ている方々も力が入りますし、やはり盛り上がりがあるのかなというふうに感じております。

また、終了後の反省会に通しまして、町内会のコミュニティの場としての色合いも強いというふうに感じているところでございます。従いまして、私としては、将来的にこの組数が減少しても、全町民が参加したいと思う人が参加できる仕組みの中でスポーツとしての町民体育祭を継続していきたいというふうに考えてございます。

○議長（小峯聡議長）上野議員。

○８番（上野敏夫議員）今、区長会議かどっかの会議の中で、８チーム中６チームが賛成してやりたいっていう意見はすごく分かるんですけど、でも沼田の教育長として、歴史がある運動会。６チームだけでやれば良いという考えではなくてね、他の紫と青とかっていうんでなくて、それぞれ行政区がそれぞれありますよね、それを行政区を無視して、無視はしてないかもしれないけどね、動くんだと思うけども

ね、でも今の回答ではちょっと私はちょっと参加したくないんだから参加しなくて良いよってちょっと今、言葉は悪いけどねそう聞こえちゃったんでね、そうでなくて全行政区が参加しやすいような内容と、どうして参加しないのっていう、ある程度足を運んだ中で内容を突き詰めていくっていう事によってね、全行政区が参加できるような体制を今から早急に整えて、町民がそれは楽しみだねって内容と説明を時間もかかるかもしれないけどね、６チームが参加してるからではなくて、全チームでなくてね、町民全部が、全員が参加できる行政区から全員が気持ちよく参加できるようにしてほしいと思います。更に教育長の今の６チームっていう言葉はちょっと重みあって、重く聞こえたんだけどね、町民のアンケート一つにしても、何割の人が賛成いや反対か、反対という意見が出てると、アンケート結果も出てますけどね、この７割の人の内容的な事を考えるとね、反対する方はアンケートに反対と書いたかもしれない。私もそういうふうに思うんですけどね、賛成の方は出さないと思うんですよ、その事からいってもね、アンケートだけがね行政のリーダーではないんですけどね、本当に８チーム行政区が参加できるような話し合いになってもっともっと時間をかけて早めに方向を示してあげる。今のまま、ただ時間が経って８チームよりも６チームが参加するからなんていう言葉なんかより、是非全区長が参加できるような考えを教育長の重い言葉でお聞きしたいと思います。よろしくお願い致します。

○議長（小峯聡議長）はい、吉田教育長。

○教育長（吉田憲司教育長）説明不足で申し訳ございませんでした。意向を聞いたのが８チーム中６チームは参加をしても良いよという事で、後の２チームにつきましては、１１月、１２月に当時の、残りの２チームの行政区長さんの所に１軒、１軒回らして頂きまして、全町民が出ることに意義があるということで、出たい人が出れるような体制にして頂きたいということで区長さんにお願いをしてきました。丁度、役員の改選の、今時期ですので、今の行政区長さんにお話ししても引継ぎをしなければいけないということもありまして、次期の１月以降の行政区長さんに、その２チームの行政区長さんに又、相談をさせて頂きたいと。そういうようなことで、その残りの２チームも出れる体制で、出たい人が出れる体制で何とか組みたいというふうに思っております。それで、そのような事で１月以降にまた、お話しをさせて頂きたいなという事で、全町民ができる町民体育祭という事で考えておりますので、ご理解頂きたいと思います。

○議長（小峯聡議長）上野議員。

○８番（上野敏夫議員）今本当に、役員改選というか近く町内会でやられておりましてね、私たちの町内会もね、悪いけど本会議でこの事、言っていいのかちょっと疑問ながら、体育祭は出ないんだから役員は出さない。役員会議には参加しないよ

うな打合せを引継ぎしたりしている町内もあるという事をちょっと教育長に耳に入れておくことによって、今後やりやすい、やる方法を考えると思うんですけど、本当に教育長、例えばですよ、グラウンドにちょっと有名な歌謡ショーがたまたま、歌で町民を元気づけるようなアイディアですよ、そういう町民に一つの、それなら行ってみようかと思うような私は、できたら肉も食べたらいいなと思うくらい。それはちょっと難しいけどね、せめて町民が誰かにお会いしたい。行きたい。というような事を教育長の出来る範囲でね、考えてほしいと思う。何かアイディアを、教育長何かあればお聞かせ下さい。

○議長（小峯聡議長）はい、吉田教育長。

○教育長（吉田憲司教育長）行政区長さんの中でも、いろいろな方がいらっしゃって、個人的な意見でお話しをされる方もおりますし、なかなかその統一的な事ではないかなと思っております。で、いろんな意見を聞きながら、相談をさせて頂きたいなというふうに思ってます。で、私が考えているのは、やはりスポーツを取らないで、なるべくスポーツとして運動会をやりたいなと、歌謡ショーですとか、いろんなイベント的な部分ってなりますと、私の方から外れることもありますので、担当が外れることもありますので、あくまでもスポーツの町宣言という事で、沼田町のスポーツ事業という事で考えていきたいというふうに思っておりますのでご理解下さい。

○議長（小峯聡議長）ここで暫時休憩致します。４時１０分まで休憩致します。

１６時０３分　休憩

１６時１０分　再開

（一　般　質　問）

○議長（小峯聡議長）それでは再開致します。７番、長野議員。空き家登録制度の更なる充実をについて質問して下さい。

○７番（長野時敏議員）７番。長野時敏です。よろしくお願いします。来年度は、横山町長の力がフルに発揮される年として期待していますし、町民の期待も大きい、そんな年だと思います。その中で、私に寄せられた町民の声も幾つかありますので、今日はお伝えしていきます。まず、空き家登録制度の更なる充実を。今日の、議員の質問のほとんどは、人口減に向かい合う、この町の姿だったように思います。少子高齢化による人口減少問題が憂慮される中、今後町内の空き家が増えることが予想されることに伴い、空き家登録制度、今ございますが更なる充実を提案致します。

１つ、まず使える空き家、空き家を探す、売る。

（長野議員、スクリーンに映る資料に指さす）

これが、沼田町移住定住公式サイトがこれであります。これを見ますと正直、ど

こをどうクリックして良いか私には分かりませんでした。ここをクリックしますと、沼田町の土地住宅の欄が出てきます。ここをクリックすると、次にこのように、売買、賃貸、要相談という欄が出て来て、いくつかの物件が示されます。更に、この詳細を見る。をクリックしますと、その地図だとか中身が出るような仕組みになっております。ここまでは分かりました。ただ、ここから先はですね、この物件を吟味したい方と売りたい方が、直接個人と個人の対応になります。私はかつて、芦別に親の空き家の実家がありました。その時は、不動産屋を介しながら、新聞に折り込みを入れながら、それでも中々売れず、金額が少しずつ下げざるを得ない。それも、不動産屋の仲介を利用しながらですね、そして最終的には売ることが出来ました。もし売れなければ、私の実家は芦別ですから、芦別市に最終的に迷惑をかけたりですね、自分で取り壊したりという事が迫られますので、そうならないようにですね、安い金額でもまあ売れて良かったなというのが私の実感です。

さて、沼田のこの空き家を登録している方、何人かいらっしゃいますが、この方達の様子はどうでしょうか。私が聞いたところ、登録しっぱなしで、ちょっと良く分からないという話しも聞いております。であれば、物件の交渉が個人と個人の対応ですので、仲介があると助かる。例えば、商工会内部に不動産免許を取得してもらうなどの支援等により、宅地取引の仲介を担って頂ければ探す・売るのニーズに叶い、更に移住定住の促進に繋がるのではないでしょうか。これが１つです。

次に、使えない空き地はどうするか。これについては、もう朽ち果てるしかない空き家です。それらは、中々督促してもですね、持ち主が動かないっていう場合もございます。例えばということで、それを町が解体費を負担し、土地は無償で寄附して頂く制度などを推進してはどうか。その土地を、これは仮称でありますが、スノー・プール・プラザ。ＳＰＰとして各町内に位置づけます。夏は広場、冬は雪捨て場に充てれば、町内の中の雪捨てのトラブルの解消にも繋がるのではないでしょうか。イメージとしては、駅前の「とむとむ広場」のようにです。空き家登録制度と併用し、移住定住公式サイトの更なる充実を図り、よりインパクトのある沼田町への移住・定住情報、仕事の情報を同時発信してはどうでしょうか。町長の考えをお伺いしたいです。

○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。

○町長（横山茂町長）空き家登録制度の更なる充実をという事で、２点ばかりご質問を頂いたところですが、まず冒頭でホームページが見ずらいというご意見があったので、そこら辺は是非とも改善出来るところは改善していきたいと思います。

不動産の取引については、ご存知のとおり、「宅地建物取引士」という資格が必要で、町としてはその業務を行うこと、あるいは推奨する事は今のところは考えてなくて、とかく広く空き家の情報を提供することを重視して取り組んできたところで

あります。今、資料の方にありました、ホームページの掲載数については、現在７件の方が公表されておりまして、町では２８年度から実施したリノベーション提案事業という事で、空き家対策事業について、参加を頂いた方１１件の方の内、今までですね、売買が決まったのが５件。賃貸が１件ということで、いわゆるそういうふうに結びついた結果が、一定の効果ですね、あったものというふうに判断しております。

ホームページへの掲載の依頼については、あくまでも所有者の方から、問い合わせを頂いて了解を頂いたものに掲載をさせて頂いておりますので、こちらの方から勝手に掲載する事はできません。その点については、ご了解を頂きたいというように思いますが、いずれにしてもその空き家になった物件については、人が住まなくなってから短期間のうちにですね、やはり住んでもらう。その環境が必要であろうというふうに重要な事だと認識をしておりますので、その情報収集について、担当課の方で十分当たっているところでもあります。

特にですね、不動産として価値のある空き家物件については、需要は非常に存在しておりますが、どうしても空きが長くなると価値が低くなるという、そんな状況ですので、近年の動きでは町内の５町内で２件。南町１件。旭町３件。仲町１件など、売買ですとか賃貸に繋がっているというふうに聞いてますので、今後においてもですね、不動産価値のある住宅については、早い時期に調整がつくパターンもありますけども、きめ細かく対応してまいりたいというふうに思っているところであります。

それから、あき家の跡地利用のご提案ですが、特にここでは行政代執行の有効活用を視野に、解体費は町が負担し、土地は補償で町にという、そんなご提案の内容ですけども、行政代執行に関しては、多分ご存知じゃないのかなと思いますが、空き地あるいは空き家が周辺の生活環境に危険な状態が切迫しており、その状態を放置することによって、人命ですとかねあるいは体又は、他の財産に重大な被害を及ぼすおそれがあると認めた時、更に所有者が亡くなっているだとか所在が分からないなど、緊急を要すると判断した時にですね、これを回避するために、行政代執行というものが行われるとゆう事でありますので、何から何までも行政代執行というわけにはいかないという事をまずご理解を頂きたいという事と、それから仮に代執行をする事になった場合ですね、空き家を更に誘発する恐れがあるだろうというふうに私たちは思っています。

ですので、住まなくなった住宅は放置しておけば町が解体してくれるっていうそんな状況になると、大変な事になりますので、そういう懸念がありますので、より慎重に代執行というものは考えるべきだろうというふうに思っているところであります。

で、空き地への雪捨てに関してですが、町民のみなさんがそれぞれですね、除雪事業者と調整しながら除雪事業者の方がですね、雪捨て場を調整していただいているというふうに推察しているところです。過去に、空き地が無かった昔については、雪を家の前に積み上げて除雪するというそんな状況が、本当に町の中に多く見受けられていたところですが、現状は冬期間通じてですね、除雪事業者に委託する例も多くなってきており、空き地あるいは町有地の利用などにより変化があったものというふうに思ってます。そういう状況ですので、改めて町が空き地を取得して今後管理することはちょっと難しいのかなというふうに考えているところであります。

あと、議員が提案致しております、仕事と住まいの情報発信については、今年度「しごと未来応援プロジェクト」という事で、この中で今、ウェブページを作成中でありますので、今年度中には情報発信できる予定となっていることをご理解頂ければというふうに思います。

あと関連して、移住に関してでありますが、情報発信は非常に重要なことであると私も思っているところです。それよりもやはり、きめ細やかなスピーディーかつワンストップで移住を希望する方に寄り添うような、そういうことが何よりも重要かなというように私は思います。

先日も、聞いたところですね、移住の問い合わせを受けて、働く場・保育園・住まいなどワンストップでですね、移住窓口でつないだところ、子育ての世帯が即転入頂いた。そういう事例もあります。そのような事を踏まえて、一つひとつ丁寧に対応して、移住定住事業を着実に進めていきたいというふうに思っておりますのでご理解を頂ければというふうに思います。付け加えればですね、移住者の方から言われた事ですが、特に他の町、近隣の町では問い合わせをしたところ、このような対応はしてくれなかった。だけど、この沼田ではね、こういう対応をしてくれたので、沼田に決めさせて頂きましたっていう、そんなお言葉も頂いておりますので、その事を踏まえて今後も移住定住対策に取り組んで参りたいというふうに思います。以上です。

○議長（小峯聡議長）宜しいですか。はい。長野議員。

○７番（長野時敏議員）はい。町長の丁寧な現在の施策については、今、理解しました。もう一歩踏み込んでという事を私は考えていました。例えば、その物件については定期相談をするだとか、金額についての見直しをするだとか、売れるためのアドバイスをするだとか、そういう事をですね、私の場合は民間の不動屋さんと調整しながら、そしてまあ希望の金額では無かったですけども、売買が成立致しました。あるいは、その物件が私の母の物件でしたので、その際は認知症を疑うんであれば、また別な手続きが必要だとか、母と面談するだとか、今土地を売ろうとしている人はどういう人でしょうか。もう沼田に住めなくなる、自分の家で生活できな

くなるくらい年老いた方、それから親が亡くなって自分は都会にいるけども、その家が空き家のままだと痛んでしまうので、何とか売ることは出来ないだろうか、それを個人に任せられている段階ですから、その辺りをですね、この制度の中でもう一歩踏み込んでですね、土地を住宅を売ってですね、というただの事では無くてですね、この沼田に住みたい人と、それから現在家に住めなくなってきている。それから、将来的に家を手放すであろう、これから増える人達のためにもですね、そのようなシステムが更に充実して、そして雇用と繋がっていけばですね、又若い人が町の中で活躍していけるというふうに考えますので、そのように町長、どのようなもう１歩踏み込んだという事をお聞きしたいんですけど如何でしょうか。

○議長（小峯聡議長）はい、町長。

○町長（横山茂町長）具体的な策は、今は申し上げられませんけども、橋渡し役というか、それが定期的に毎月なのかどうかはちょっと別にしても、今の、先ほど申した掲載されている情報がね、適切に最近の情報であるかどうかっていう事も踏まえて、対応はちょっと考えてみたいというふうにお思います。

○議長（小峯聡議長）はい。長野議員。

○７番（長野時敏議員）分かりました。物件が動く、人が動く、お金が動く、町にとって良い事だと思いますので、力強く進めて頂きたいと思います。この件、終わります。

○議長（小峯聡議長）はい、それでは続いて子育て日本一、赤ちゃん世帯へゴミ袋の無料配布の町づくりについて質問して下さい。

（スクリーンに可燃ごみ袋の映像が映される）

○７番（長野時敏議員）子育て日本一、赤ちゃん世帯へゴミ袋の無料配布の町づくり。この画像はですね、皆さんご存知の、ただのゴミ袋ではあります。以前、上野議員から提案したものの、前町長は良い返事がなく実現しなかったものです。それが、「赤ちゃん世帯へのごみ袋の無料配布」です。今は、ほぼ紙オムツの時代です。紙オムツを買って、その処理のためにごみ袋を買う。子育て中の家庭負担は大きいです。このごみ袋事業は大きな自治体でも行われている例は多く、役場の費用面、職員の手間の面でも、負担は少ないのではないでしょうか。

１つ、町の費用が少ない。小さい燃えるゴミ袋２０ℓ １０枚は、４００円で販売されていますが、原価はさらに安いはずです。４００円から原価を差し引いた金額が、町に入るごみ処理に使える金額となります。そのために新たな支出の必要は生じません。

２つ、配布方法。出生届提出時に渡してあげれば、配達の手間もかかりません。

３つ、配布数。３歳まで毎週１袋出したとして、３６５日を７で割ると５２週です。掛ける３年で１５６。約２００枚。一度に２００枚が渡されれば、極めて満足

度が高いのではないでしょうか。転入者へは３歳以下のお子さんがいれば、その年数に応じて渡します。以上、赤ちゃん世帯へゴミ袋の無料配布のまちづくりについて、子育て日本一を目指す町長の考えをお聞きしたいです。

○議長（小峯聡議長）はい、町長。

○町長（横山茂町長）はい、お子さんもね、抱えてご覧になられている方もいるのでね、あれですけど。まず、私の考えを述べさせて頂きたいと思いますが、その前にですね、ゴミ袋の価格は、ゴミ袋の値段ではなくて、あくまでもごみ処理の一部というふうに捉えて頂きたいと思います。参考までに沼田町が、ごみの処理費用に町が負担している額、年間で約１４７０万ほどかかっていますが、そのゴミ袋を買って頂いているお金は、この一部であるという事をご理解を頂ければというふうに思います。

それで、ご提案のあったゴミ袋を赤ちゃん世帯にという事で、例えばここで提案されている３年分を一度に渡すという事が、渡す側の手間はかからないかもしれませんけど、もらう側って嬉しいんでしょうかね、満足頂ける声なのかっていうのがちょっと僕は逆に心配をしているんです。で、その子育て日本一の町づくりにゴミ袋を渡すことが理想なのかなっていうのもちょっと心配をしているところで、確かにですね、ゴミ袋を支給されるということは、ありがたいと言ってくれる方もおられるというふうに私も思いますが、本当の意味での子育て世代に喜ばれる、心をくすぐる、そういう施策なのだろうかなというのが、少し私としては心配をしているところであります。ですので、うちの町は今までですね、数多くの施策、対策を取り組んできていて、予算の額も相当な額、予算計上させてもらってます。

ただ､子育てに関する課題というのはやはりまだまだたくさんあると思うのです。ですので、その課題を解決するために更に安心して子育て頂ける環境をつくるためには、本当にどうあるべきなのか、どういう事業なのか、優先すべき事業はなんなのかという事をやはり、今内部でも検討させているところですし、様々な角度から検討した上で、来年度、令和２年度の当初予算にですね、改めて子育て日本一を目指す視点での子育て支援策を提案したいというそんな思いでおりますので、ご理解を頂ければというふうに思います。

○議長（小峯聡議長）はい。長野議員。

○７番（長野時敏議員）ありがとうございます。まず、もらう側は嬉しいのか。これは私に寄せられたお母さん方の話し、それから私がまた聞き返した話で、嬉しいそうです。

オムツが取れる平均は、３歳だそうです。でも家の子は４歳までかかりましたっていうお母さんもいます。季節によって、冬は中々取れずらい、それから１歳未満の赤ん坊、１日にどれくらいオムツを換えるか町長ご存知ですか。

５、６、７、８、９、１０、その辺りだそうです。私の子ども、それから町長のお子さんの時代は多分、布オムツでした。ではないですか。布オムツは洗う手間があります。それから使い心地も悪いです。使い心地が悪いから、早くオムツ離れするという事を昔の方は分かっていて、ばあちゃん達がオムツを縫って嫁さんに渡したりっていうような昔がありました。それから紙オムツも、当時の紙オムツは性能も悪く、値段も高かったです。ですから、外出の時は紙オムツなんていうこともありましたね。今は、値段も安くなりオムツの性能も良くなりました。ほぼ、紙オムツです。それが１歳未満児のお家では、５つから１０個の間くらい出るそうです。オムツは軽いオムツですが、おしっこを吸ったオムツはどんなになるか分かりますよね。ずっしり重くなりますね、それが１０個毎日でます。１週間かかると、それが７０個になります。それを２０ℓ にぎゅうぎゅう詰めに入れるわけです。中には、オムツ世代が二人いるご家庭もあります。そうすると、２０ℓ できかなくて、我が家は４０ℓ に入れてるわ、燃えるものに混ぜてる家庭もあれば、オムツ専門の袋に混ぜてる家庭もあれば、それから、おしっこだけじゃなくてウンチもトイレの所に行って、お母さん方結構、素手で洗ってるみたいです。ウンチそのままゴミ袋に入れたら駄目だって、これに書いてありますから。ここに書いてますから。ですから、そういう苦労を３６５日、お母さん方はやっているんです。そのゴミ袋を、買いに行くのも大変だと、面倒くさい。出生時に一気に２００もらったらどうだろうね、「それは有難いわ」っていうような声が、私に寄せられています。そしてこの、子育て日本一というのは、たくさんの支援策があると思いますが、例えば一つです。このゴミ袋だけで、子育て日本一が実現するという話しでは無いというのは、もう町長もご理解の通りだと思います。ただ、私に寄せられたお母さん方の切実な声、そして私が何人かの方にリサーチした時、「それは良いわ。やってもらいたい。２００、もう大歓迎だ。」そういう声をですね、町長、受け止めて頂ければと思ってここで発言しております。町長、お考え如何でしょうか。

○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。

○町長（横山茂町長）説明のあった内容については、重々理解は致しますが、そのご意見を踏まえて、新年度の予算で検討させて頂きます。

○７番（長野時敏議員）期待しております。よろしくお願いします。

○議長（小峯聡議長）この件については良いですか。質問は、この件については良いですか。

○７番（長野時敏議員）ありません。

○議長（小峯聡議長）はい、続いて高規格道路の市街地付近に「高速るもい号バス停」の設置をについて質問して下さい。

○７番（長野時敏議員）はい、高規格道路の市街地付近に「高速るもい号バス停」

の設置を、これにつきましてはＪＲ留萌本線を維持し、自家用車の環境も作り、更に高速バスも活用出来る。そんな選択肢を町民に提供できるよう質問致します。
（スクリーンに、高規格道路付近の映像と、道路地図が映し出される）
高規格道路の市街地付近、この地図で言いますと、大体この辺になります。学校があって、そこからずうっと下がって来て、そして高規格道路がある。この辺りですね、ここをですね車で通ってみました。高規格道路が、ここのエリアが、なんと膨らみがあるんですね、雪捨て場です。それもかなりの長い距離。上りも下りも、これは先人の方が、歴代の町長がですね、国交省と話を進める中で、可能性を持たした膨らみではないのかな。私勝手に想像したんですけども、ここのエリアはいかにも高速バスが停まれるエリアになっています。そうでなければ私こんなこと言いません。そしてここに階段を設置すれば、町民はここまで行って、バス停があれば利用する事ができます。それから、札幌圏からこのバスに乗って、ここで降りることも可能です。そうすると、このバス停設置により利便性が更に向上し、町民の足の充実が期待できます。足は、１本よりも２本、２本よりも３本、同じ理由により中華圏の方、全国、札幌圏、留萌港関連の関係人口の促進が期待できます。高規格道路、市街地バス停の場所を考慮し、駐車場などの整備をして頂ければ、更にここに車を置いて階段に上がって出掛ける事ができる。あるいは、町外から来られて方がここで降りて、降りても周り何もありませんから、ここが整備されれば市街地に移動してそして更に、関係人口の促進に繋がる。あらゆる公共交通の中に、この部分は入るのではないでしょうか。
町長、政治力を発揮して国土交通省に働きかけ、留萌深川自動車道が完成の今こそ沼田町の発展のために、動く時ではないでしょうか。人口が減ってからでは、後手後手に回ります。全線開通の今こそ、大義名分も立つのではないでしょうか。ＪＲ問題はまたこれと別の問題だと思います。町民の足、町外から来る方の足、２本、３本あることで沼田町の人口対策にもプラスに繋がっていくのではないでしょうか。という事を、町長にですね、ご質問致します。よろしくお願いします。
○議長（小峯聡議長）はい、町長。
○町長（横山茂町長）バスを利用することが町民にとって悪いわけではないでしょうし、今後の事を考えるとね、いろんな手法があるのかもしれません。ただ、私が今日それぞれ説明をさせて頂いたとおり、今正にＪＲで利用して下さいよっていう話しなのになんでこんな質問が出るのか、ちょっと私にはね、凄く理解が出来ない。多分、あれもこれも要望しているんであれば、一つになれないと私は思うんですが、オール沼田で、このＪＲ鉄路を存続しようっていうその動きを、頼むから皆さんで協力してくれっていうそういう思いを伝えてきたつもりだったんですけど、ご理解頂けないんだろうか。私から質問は出来ないので、次の質問でその旨もお聞かせ頂

ければと思います。
○議長（小峯聡議長）はい。長野議員。
○７番（長野時敏議員）はい、ご指摘ではありますが先日の１１月２４日、町づくりの視点から見た鉄道を考えるシンポジウム。この中で、永山茂氏は、観光列車、バスの充実ってお話しをされていました。何度も言いますが、町民、町外の方の足は１本ではなくて、２本、３本あることで沼田に来る人がたくさん増える。それが、町づくりに繋がる。今、ＪＲを大切にするお気持ちは分かりますし、私もここにＪＲに乗り続け隊のバッチを着けております。留萌本線、大好きですし大賛成であります。ですがそれと又並行して、こういう立地がありますので、ここの部分を考えて町民の声を聞いて頂きたい。これも町民の声の一つです。その辺りを町長どのようにお考えでしょうか。
○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。
○町長（横山茂町長）一つのね、手法としてという思いは、分からないわけではないし、決して邪魔になるものでも無いと思います。利用する方もいるでしょう。ただ、今、ここでバスストップを国交省にお願いするのは先決じゃなく、少なくともＪＲ存続を先決する。存続をね、要請するのが先決じゃないかと私は思います。
○議長（小峯聡議長）はい。長野議員。
○７番（長野時敏議員）はい、ＪＲは勿論大事であります。それと同時にですね、この機会を大事にして、又町民の声を聞く耳を持ってですね進めて頂きたいと考えております。町長も、このタイミングでお答えしずらい部分もございます。この辺りは、私も継続してですね、進めてお願いしたりですね、町民の声を聞いてまた、町長にお伝えしたりして行きたいと思います。いずれにしましても、３千人の町は近い将来、３千人を割り込んで、２５００、２０００という事が予想されます。出来る対策は、何でもやることが必要と考えています。夢と希望と誇りの持てる町づくりを目指す町長。この町長に私も大賛成ですので、その中でいろんな話し合いを続けながら町づくり、よろしくお願いしたいと思います。私からは以上です。
○議長（小峯聡議長）答えはいりませんね。はい。

（会議の延長）

○議長（小峯聡議長）ここで、議長より終了時間の延長について宣告致します。本日の会議は、一般質問が終了するまで、延長致します。

○議長（小峯聡議長）続いて１０番。大沼議員、一般行政（住みやすい町づくりを）について質問して下さい。
○１０番（大沼恒雄議員）１０番大沼です。質問に入る前にですね、アフガニスタ

ンで銃撃されて亡くなられた中村哲ドクターにですね、心からの御冥福をお祈りしたいと思っております。さて、質問に入らさせて頂きます。一般行政という事でございますけれども、住みよい町づくり、先ほど伊藤議員言われたけども、住みよい町づくりの土壌づくりの一環として４つほど質問させて頂きます。

まず１点目です。沼田町農業委員会からの建議書における新たな仕組みづくりということで、一般行政報告になされておりますが、新規就農者等支援体制、それから農作業受委託等専門会社の設立、この辺は町長がね、一般行政報告にこれを載せて報告するだけの新たなものがあって、特に感銘したものがあったのか、その辺をお聞きしたいと思っております。

それから２点目、ＪＲ留萌線の関係ですけども、これは先ほどからもありましたけれど、２市２町での利用促進策っていうものは、２市２町で検討されているのかという事をお尋ねしたい。それでもし、それはやっぱり事務レベル会議と首長会議があると思うんだけどね、そういった中で、シンポジウムとかそういったものは当然その会議でいいのかもしれないけれど、沿線にいる市民、町民がね、実際どうやって利用促進、使う事を考えたらいいのか、それをちょっと検討されているのか、だから同じ事で沼田町民の利用状況はって言っていますけども、沼田町民の皆さんもどうやったら留萌本線を使って頂けるんですかと、どうやったらこうやったら使って頂けるんですかっていう対応策、これがあったらお尋ねしたいという事で挙げております。

それからですね３番目の質問。ちょっと、主語がなくて申し訳なかったんですけども、抗菌薬が効かない多剤性耐性菌によりですね、国内で年間８千人以上が亡くなっているとの推計。これが、国立国際医療研究センター病院がまとめまして、１２月５日、国内で初めて公表しています。抗菌薬の使い過ぎや、菌がまだ体に残っているのに服用をやめるなど不適切な使用が原因で耐性菌ができるとされています。この事についてですね、普及啓発する必要があると思うんですが認識と考えは如何かと。

それからもう１つ、これは平成３０年の２月、公益財団法人北海道環境財団が地球温暖化対策に資する市町村アンケート調査を実施しているようです。沼田町は、どのような回答をされたのか。それから、地球温暖化対策は、もう決意や目標を示すだけでなく、実際に温室効果ガスを減らすべき段階に入っていると思っております。その辺の認識と考え方をお尋ねしたいと思います。

あのスウェーデンの１６歳の環境活動家のグレタさんですね、この方がサミットでですね、貴方たちは私たちの期待に応えないと、子どもが訴えています。これは大人に何とかせいよと、この言葉を聞いた時にですね、受け取り方は色々なんだろうと思うし、地球温暖化が本当にその地球の今の気候変動がね、温暖化によって進

んでいるか進んでないか、それは僕らも専門家でないから分からないんだけれども、でも何となく気候が変だというのは皆さん考えていると思う。その中でですね、サミットがどうのこうのという話しよりも、数字的な目標。これは国も挙げることを今回やっていません。それで１１あった事業も取りやめてます。しかしながら、この彼女の言葉を聞いた時に、やはり大人として一歩前進するべきじゃないかと思います。ＪＲ問題に関しても、町長は環境問題に結び付けて、ちょっとお話しする事がございますので、この辺の意識と見解をお尋ねしたいと思います。短めにお願いします。

○議長（小峯聡議長）はい、横山町長。

○町長（横山茂町長）たくさんご質問事項がありますので、ちょっと短めにと言っても多分大分時間掛かるんかなと思います。まず、１点目の新たな仕組みづくりという事で、これは例年、毎年頂いているわけでなくて、何年かに一度、農業委員会の方から建議書という形で要望事項を頂いております。その事の詳細については、農業委員会長の方から本来説明を頂く場面じゃないかなというふうに思いますが、概略だけ私の方から示させて頂いて、課題については、農業を取り巻く情勢いろんなものが課題がございまして、国内外の情勢が目まぐるしく変化する、そんな状況を踏まえてですね、町の農業者が将来に向かって希望と誇りを持って農業に取り組める。そして次世代に安心して受け継がれるようにという、その思いを込めてですね、４つの要請内容を頂いているところであります。

簡潔に言うと、農作業受委託等専門会社の設立という視点、それから新規就農者等支援体制の構築いわゆる農地保有合理化法人の設立、それから農地流動化に関する経費支援制度の実施、あと離農跡地の造成と隣接農地との一体的な造成に対する制度の実施という４つの視点でご要望頂いているところであります。そのご要望頂いて上で、今後の町としてはですね、指針を含め現在関係機関、団体長で構成しております、農業総合対策協議会それから、農業振興委員会の方から諮問を受けてですね、町それからＪＡ、改良区、普及センターの職員による企画班会議において、現在検討を頂いている段階でありますので、まとまり次第また改めてご提示をさせて頂きたいというふうに思います。

それから２点目のＪＲ関係でございます。２市２町での利用促進策についての検討という事で、これにつきましては、ＪＲ留萌本線問題検討会議という所で利用促進策は検討されていたところであります。いろいろと検討している、提案が挙がっているところですが、具体的に２市２町共同での事業実施については、未だ無いところです。広域的な視点で言いますと、北空知圏の振興協議会でのホームページにおいて情報提供を頂いているのと、それから北空知とそれから南留萌自治体で実施しています、子供パスポート事業というもので、駅も対象施設に設定しながらです

ね、２市２町の設定している事業として実施をしているものであります。

それから２点目の町民の利用現況あるいは、利用促進の考え方についてという事で、この点については先ほどらいＪＲの関係で、それぞれ回答させて頂いているところでありますが、まずその留萌線の利用状況についてでありますけども、平成２７年度においては１８３人の輸送密度であったところですが、やはり年々減少している３０年度については、１４５人に減少しているようであります。ただ今年、令和元年の直近で言うと７月から９月においては、１７４人で前年同期プラス１７人となっているようです。これは、深川市さんですとかね、本町の取り組みが多少なりともね、反映して増加に繋がったのではないかなという事と、ＰＲなど少しばかり、繋がって来たものが推測されます。あと、具体的な今後の利用策については、先ほどから説明させてもらっているので、（大沼議員「もういいです。３つ目行って下さい。」）はい、よろしいですか。（大沼議員「はい、いいです。」）

はい、それでは３点目、薬の関係ですね。これにつきましては、薬局それから病院の指導のもと服用され、その際の説明も十分にされるべきというふうに認識しているところですが、いわゆる抗菌薬に限らず薬の服用については、指示に従わない不適切な使用は、大変危険なことであるのは重々ご存知かというように思われますけども、町民に向けての普及、啓発が必要なものについてはですね、当然お知らせをしていくというふうに思っておりますし、町の判断ではできないこともありますのでね、国あるいは北海道からの周知、あるいは指示によって対応していきたいというふうに思ってます。

それから最後に、環境問題。これまでの報告、平成３０年の３月末時点で、報告をしている概要については、５年間の削減目標を５％と設定して報告をしているところです。具体的には、ゆめっくる、あるいは和風園、小学校における雪冷熱冷房。それから、防犯灯へのＬＥＤ化。３００基ですね。それから、小学校における太陽光発電、クールビズの取り組み。（大沼議員「いや、その辺は良いです。」）

はい、加えて報告以降で言いますと、街路灯や交差点灯のＬＥＤ化、あるいは実習農場の太陽光発電の活用、それからハイブリッド車、低燃費車の導入、それとカネカとの連携によります医師住宅の太陽光パネルによる太陽光の活用などに取り組んできたところであります。

○議長（小峯聡議長）はい。

○１０番（大沼恒雄議員）農業委員会からの建議書、これはまた進んだら、後で見せて頂けるなり、何かして下さい。それからＪＲの関係ですけどね、共同の事業は無いと、これはやっぱり２市２町で動きが無かったら、横山町長これどうですかね、イニシアチブを取るような形で、やっぱり声をかけて行かないと駄目だと思います。それで、取り敢えず経済で考えればね、残こすということになると使わないとなら

ないんで、取り敢えず町民でも留萌沿線の人でも乗ってもらわないと駄目なので、そういう手法って言ったらいいのかな。お金を出す出さないもあるかもしれないけれど、その辺はね、びっちり事務レベルでも首長レベルでも、ガンガン言って進めないと中々進まないと思いますので、その辺よろしくお願いしたいと思います。それ、答えはいりません。

それから抗菌薬の関係なんですけどもね、薬剤耐性菌の中で今の多剤耐性菌というのが出て来ているんですね、これは薬が、抗菌薬が効かないという病気です。で、治療法が限られてくる。だけど多剤耐性菌とか薬剤耐性菌というのは、みんな持っているんですよ。だけど、抵抗力が無くなった人が罹りやすくて、最終的に重い病気になった時に死亡に至る。こういう結果です。で、その中ではですね、細かいこと言ってもしょうもないんだけども、一番肝心なのはね、細菌とウィルスの違いって分かります。分かんないよね、したらね結局ね、風邪。これ、抗菌薬飲んでも効かないんですよ。だから風邪に抗菌薬を出しても効かないのに、出しちゃうんですよ。お医者さんが。それで耐性菌を作ってしまう。だから今、医者の中でもお互いに啓発活動始まっているんですよ。余分な薬出さないでおこうねって。

だから難しい話はちょっと別にしても、やはり風邪に抗菌薬は効きませんとか、ちゃんとこれは手指衛生というのかな、これ課長は分かっているんだろうけど、専門用語でちゃんと手を洗うっていう事らしんだけれど、そういう手指衛生。これもちゃんと手洗いして下さいという事なんだけれど、そういった事の啓発普及。まあ、普及啓発っていうのかな。これをやっぱり進めていくべきだと思います。難しい話は別にして、何でもいいから多剤耐性菌、年間で８千何百人亡くなっている。でも、これは防げますよ、気にする事ないですよ。恐れることもない。ちゃんと対処しましょうねっていう事でかなり減るんでないか。そのための啓発活動して下さいという事のお願いです。

それから、これはＳＤＧｓ（エスデージーズ）の考え方を金平町長もよく言われていたんだけれども、グローバル・ゴールズという考え方です。これは政府がですね、今年出してますね。えーと何処だ、政府がねＳＤＧｓアクションプラン２０１９っていうのを出してます。その中でですね、ＳＤＧｓこれを原動力とした地方創生。強靭かつ環境に優しい魅力的な町づくり。これを１つの柱として、地方創生の活動して下さいって言っているんですよ。ですから、ここら辺でやっぱりこれも取り組んだね、考え方。これも町民の皆さんには、難しくて分からないかもしれないけれど、さっき町長が言ったね、僕はね沼田町が何もしてないとは言っていないんです。ただ、町民目線で言ったら、ＣＯ２ってどうやって削減したらいいんだろう分からないんです。正直言って。何をやったら分かりますか。それはやっぱり行政がね、指導していくべきだと思うんですよ。例えば、ＬＥＤに変えましょうとか。タバコ

吸うのを止めましょうとかね。そういった事って全部繋がるんだと思いますよ。農業で言えばね、環境保全型の農業っていうのもそうだよね。農業委員会長ね。ＣＯ２の削減だよね。目指しているのはね。だけど、経済と環境と一致しないんです。生活はしていかないとならない。生活するために儲けないとならない。儲けないとなんないからＣＯ２の排出します。だけど地球は温暖化でおかしくなってきます。ここの矛盾はね、やっぱり行政がね、沼田のＣＯ２の排出量。これをきちっと確認というかな、管理して、例えばなんぼ出てるか僕もわかんないけれど、例えば１万出てるものだったら、１万出てるものに対して沼田はＣＯ２ゼロ宣言をするくらいのね、勢いで行かないと駄目だと思います。それくらいの覚悟を持ってして頂きたいと思うんですが如何でしょうか。

○議長（小峯聡議長）はい、町長。

○町長（横山茂町長）ゼロ宣言はしたいところですが、少なからずその、総合戦略とかひっくるめてですね、取り組みについては、ちょっと検討して対応していきたいと思います。

○１０番（大沼恒雄議員）ＳＤＧｓの勉強もして下さい。終わります。

○議長（小峯聡議長）はい、以上で一般質問は終わります。

（延　会　宣　言）

○議長（小峯聡議長）お諮りします。本日の会議はこれで延会したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（小峯聡議長）ご異議なしと認めます。本日はこれで延会する事に決しました。本日はこれで延会とします。なお、明日の開会時間は、午後３時と致します。ご苦労様でした。

１７時０５分　延会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するためにここに署名する。

議　　長　小峯聡

署名議員　富田勲

署名議員　篠原暁